

平成29年度 授業概要



S Y L L A B U S

聖園学園短期大学  
保育科

# 目 次

## 1年次

### ◆基礎教養科目

キリスト教人間学Ⅰ	1
くらしと憲法	2
日本語の表現Ⅰ	3
文学	4
子ども文化	5
ボランティア活動	6
子どもと自然	7
保育の英語	8
健康・スポーツ論	9
体育実技	10
情報処理	11
情報処理（経験者）	12

### ◆専門科目

音楽の理論と合奏	13
声楽Ⅰ	14
器楽Ⅰ（ピアノ）	15
幼児造形Ⅰ	16
福祉基礎理論	17
児童福祉と家庭	18
子どもの保健ⅠA	19
子どもの保健Ⅱ	20
小児栄養	21
保育者論	22
保育の基礎理論	23
社会的養護Ⅰ	24
保育の心理学Ⅰ	25
保育内容の指導法 人間関係	26

保育内容の指導法 言葉	27
幼児指導法	28
乳児保育Ⅰ	29
障がい児保育	30

## 2年次

### ◆基礎教養科目

キリスト教人間学Ⅱ	31
日本語の表現Ⅱ	32

### ◆専門科目

音楽の理論と合奏Ⅱ	33
声楽Ⅱ	34
器楽Ⅱ（ピアノ）	35
幼児造形Ⅱ	36
幼児造形Ⅲ	37
幼児体育	38
運動表現	39
児童文学	40
数論	41
生活科の研究	42
相談援助	43
保育相談支援	44
家族援助論	45
子どもの保健ⅠB	46

教育原理	47
保育の心理学Ⅱ	48
発達心理学	49
教育制度	50
教育・保育課程総論	51
保育内容総論	52
保育内容の指導法 健康	53
保育内容の指導法 環境	54
保育内容の指導法 表現	55
幼児指導法Ⅱ	56
乳児保育Ⅱ	57
社会的養護内容	58
援助に生かす心理学	59
保育・教職実践演習（幼稚園）	60
卒業研究	61

## 実 習

教育実習指導	63
保育実習指導Ⅰ	64
保育実習指導Ⅱ	65

※実習指導については、2年間を通して行う。

# 授業と科目の履修について

## ●出欠席等

- ① 出欠席については、授業科目毎に科目担当者が確認する。
- ② やむを得ない理由により欠席する場合は、科目担当者に「欠席届」を提出すること。緊急を要する場合は、教務課（018-862-0337）に連絡をすること。
- ③ 病気等やむを得ない理由により長期欠席をする場合は、医師の診断書等を添えて「欠席届」を教務課に提出する。
- ④ 遅刻は授業開始10分以内とし、科目担当者に申し出ること。早退は科目担当者及び担任に申し出ること。遅刻、早退は2回につき1時間分の欠席として扱う。
- ⑤ 本学には公認欠席や忌引の扱いはない。ただし、やむを得ない理由（災害、就職試験、実習オリエンテーション等）による遅刻・欠席については考慮される場合がある。
- ⑥ 授業の出席時数が、基準の3分の2（実習、実技は5分の4）に満たない者は受験資格を失い、単位は修得できない。

## ●科目の履修

- ① 科目には必修・選択の別がある。
- ② 選択科目は更に選択必修と自由選択の科目に分けられる。  
これらについては、時間割表やシラバス等を参考に、学生自身が自らの責任において決定し、指定の期日までに教務課に「履修届」を提出しなければならない。
- ③ 「履修届」は、単位算定と成績評価の基礎となり、卒業及び教育職員免許状申請・保育士資格取得の要件につながるものである。  
履修の具体的な説明については、次の時期に行う。  
1年次履修科目：教務課が適宜行う。  
2年次　　〃　　：教務課が適宜行う。
- ④ 科目によっては、授業内容上、受講者数を制限したり、受講者数が極めて少ない場合は開講しないこともある。
- ⑤ 履修科目の変更は、原則として指定期間内のみとする。
- ⑥ 届出以外の科目の授業及び試験は受けられない。
- ⑦ 自由選択科目について  
自由選択科目を途中放棄する場合は、学長が定める日まで、教務課に申し出ること。指定された期日以降に途中放棄する場合は、成績評価をF（不合格）とする。

## ●成績

- ① 各科目の成績については、試験・レポート・作品・実技・実習・平素の学習状況・出席状況等により、総合的に評価する。
- ② 評点と評価基準は、次のとおりとする。  
(学則第24条第2項)

評 点	評 価	
100点～90点	S	合 格
89点～80点	A	
79点～70点	B	
69点～60点	C	
59点以下	F	不 合 格

1 年 次

科目名	キリスト教人間学Ⅰ		必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	30%
	担当者	門戸 美智	単位数	2	学年・期間	1 年 通 年		レポート	—
授業のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧約聖書を通して、神の人間に対する救いの歴史を学ぶ。</li> <li>旧約聖書から現代に学ぶものは何かを考察する。</li> <li>旧約聖書から新約聖書を貫いている神の愛を自分の生活の中で気づく。</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>本学の建学の精神を理解する。</li> <li>キリスト教の基本的な祈り、聖書の読み方を理解する。</li> <li>旧約聖書の基本的なことを知り、神の人類に対する救いの歴史を理解する。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>天地創造をはじめ、最初の人間と罪の問題に対して、神はどのように人類を救おうとされるのか、関心を持ちながら旧約聖書を読んでほしい。</li> <li>旧約聖書資料はプリントで配布するので読んでおくこと。復習もプリントを読む。</li> </ul>								
回	授業計画			授業内容					
1	オリエンテーション			祈り、聖歌、聖書の使い方、読み方、授業の目的					
2	聖書について			旧約聖書、新約聖書について					
3	天地創造			創世記 初めに神は天と地を創造された					
4	自然			神はすべてを良しとされた					
5	自然			回勅『ラウダート・シ』について					
6	最初の人間			神はご自分に似せて人を創造された 創世記2：4～25					
7	最初の人間			神はご自分に似せて人を創造された 創世記3：1～24					
8	悪・人類の最初の罪			アダムとエバとその罪					
9	み心の愛			神の愛とミサについて					
10	み心のミサと講演			み心のミサと講演(参加・感想文)					
11	悪・人類の最初の罪			カインとアベル 創世記4章					
12	カリタス・ジャパンについて			カリタス・ジャパンの活動を知り理解を深める					
13	悪・人類の最初の罪			洪水 創世記6章～10章					
14	悪・人類の最初の罪			バベルの塔 創世記11章					
15	族長物語			アブラハム物語 イサク物語 ヤコブ物語 の流れ					
16	アブラハム	イサク	ヤコブの神	アブラハムの召し出し 創世記12章～					
17	アブラハム	イサク	ヤコブの神	アブラハムとイサクの物語 最大の試し 創世記22章					
18	アブラハム	イサク	ヤコブの神	ヤコブ物語 創世記25章19～34					
19	アブラハム	イサク	ヤコブの神	ヨゼフ物語 創世記37章～					
20	アブラハム	イサク	ヤコブの神	ヨゼフ物語2 創世記42章～					
21	待降節			待降節を知る					
22	クリスマスミサ			クリスマスミサ(参加・感想文)					
23	救い			モーセと出エジプトの物語1 出エジプト記1章～3章					
24	救い			モーセと出エジプトの物語2 出エジプト記12章 14章					
25	救い			モーセと出エジプトの物語3 主の過ぎ越し 最後の晩餐					
26	救い			モーセと出エジプトの物語4 律法と神の十戒					
27	振り返り			創世記 ～出エジプトまで					
28	預言者			神は昔預言者によって語られた サムエル記					
29	預言者			神は昔預言者によって語られた 列王記					
30	預言者			神は昔預言者によって語られた イザヤ書					
テキスト	フランシスコ会聖書研究所訳注：『新約聖書』(サンパウロ) ガエタノ・コンプリ著『ここにひかりを』(ドン・ボスコ社)								
参考文献	『旧約聖書』、ガエタノ・コンプリ著『人生に光を』(ドン・ボスコ社) ラシャペル・アンドレ著『人間と聖書Ⅰ旧約聖書による人間像』(サンパウロ)								

科目名	くらしと憲法		必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	80%
	担当者	山本 尚子	単位数	2	学年・期間	1 前期		レポート	—
授業のねらいと概要	憲法の内容と基本的な考え方を自らの社会生活に根ざしたものとして理解する。								
到達目標	・憲法の基本的な考え方を理解できる。								
準備学習 (予習・復習)	日々、社会の出来事について、憲法や法律を意識してとらえてほしい。それらの考えを授業と関連付けて積極的な発言を期待する。								
回	授業計画				授業内容				
1	憲法の意義				憲法の規定する内容を確認し、各法律との関係について理解を深める。				
2	憲法の歴史				日本国憲法の成り立ちやその位置づけについて説明する。				
3	幸福追求権				幸福追求権とは何かということについて具体的事例を取り上げながら理解を深める。				
4	法の下での平等				法の下での平等が意味する平等について、具体的事例を通して考える。				
5	内心の自由				内心が制約されていた歴史を踏まえ、内心の自由の不可侵性を理解する。				
6	表現の自由				表現の自由の重要性を理解し、さらに、現代社会においては、送り手としてだけでなく受け手として保障されていることを理解する。				
7	経済的自由権				経済的自由権はどのような権利を保障しているかということを説明する。				
8	人身の自由				刑事手続の流れについて説明をし、被告人等に関する基本的人権を保障する意味について考える。				
9	社会権				昨今の生存権や労働権についての具体的事例を取り上げながら、社会権が保障する内容を説明する。				
10	国民主権				国民主権の意義について説明し、国民主権が我々の生活をどのように保障するのかということを理解する。				
11	国会・内閣・裁判所				国会、内閣、裁判所のそれぞれの権能、そして三者間の関係について説明し、統治機構の理解を深める。				
12	地方自治				地方自治の意義について理解を深める。				
13	平和主義				具体的事例を取り上げながら、憲法9条の意味について考える。				
14	憲法の保障				違憲立法審査権について、具体的事例を取り上げ、説明する。				
15	最高法規性				憲法が国内において最高法規であることの意味を説明する。				
テキスト	『デイリー六法 平成29年版』(三省堂)								
参考文献	『憲法 第五版』(岩波書店)								

科目名	日本語の表現Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	
						試験	40%
担当者	大原 かおり	単位数	2	学年・期間	1 年 通 年	レポート	－
						提出課題	60%
						授業態度・意欲	－
授業のねらいと概要	日本語表現の基礎を振り返り、社会人としてふさわしい国語力を身に付ける。 ○テキストやプリント資料を用いた講義・演習、応用として創作活動をする。						
到達目標	日本語の特質を理解し、適切な表現を用いた言語活動ができる。 ○さまざまな言語活動を通じて、知識を深め理解し、思考力や判断力、表現力を向上させることができる。 ○日本語検定3級（高校卒業程度）の合格認定を受ける。						
準備学習（予習・復習）	○〈国語力トレーニング〉では、事前に問題を解いて授業に臨むこと。 ○演習後・添削後の課題には必ず目を通し、正しい日本語表現の習得に努めること。 ○11回以降の授業では、スピーチを行う（各回3名ずつ。3分程度）。						
回	授業計画	授 業 内 容					
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法の確認。敬語とは・尊敬語					
2	国語力トレーニング	謙讓語①・謙讓語②・丁寧語①・丁寧語②・状況に合わせた～					
3	〃	第三者を交えた敬語・誤った敬語の使い方・さまざまな敬意表現					
4	〃	総合演習①（日本語検定過去問）					
5	〃	敬語の学習のまとめ・用言の活用と接続・可能動詞～・文の～					
6	〃	言葉と言葉の関係・類義語・対義語					
7	〃	総合演習②					
8	日本語検定 【6月10日（土）】	日本語検定3級受検					
9	日本語表現の基礎	話し方の基本・美しい文字の書き方 ※スピーチについて					
10	〃	正しい表記と表現 ※スピーチ開始					
11	文章表現の基礎	文章作成の留意点					
12	文章表現の応用	作文「私の目指す保育者」					
13	〃	リポート作文					
14	〃	手紙・礼状の書き方					
15	〃	評論読解					
16	〃	作文「絵本評」					
17	〃	レポート「聖園祭だより」について					
18	〃	「聖園祭だより」作成①					
19	〃	〃 〃 ②					
20	〃	〃 〃 ③					
21	〃	〃 相互評価①					
22	〃	〃 ②					
23	〃	〃 ③					
24	〃	小論文の書き方					
25	〃	小論文「本当の豊かさ」					
26	〃	「しりとりに絵本」の作り方					
27	〃	〃 作成①					
28	〃	〃 〃 ②					
29	〃	〃 発表会					
30	〃	まとめ					
テキスト	日本語検定委員会編：『ステップアップ日本語講座中級』（東京書籍） その他、自作プリントを使用する。						
参考文献	『国語便覧・要覧』（高等学校で使用したもの）						

科目名	文学	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	評価の方法	
						試験	—
担当者	大原 かおり	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期	レポート	40%
						提出課題	50%
						授業態度・意欲	10%
授業のねらいと概要	「絵本学」について学ぶ。絵本の基礎理論と基礎知識を学び、さまざまな観点で絵本を分析する。 ○テキストと絵本を基に講義・演習をする。						
到達目標	○絵本の基礎理論を理解し、基礎知識を習得する。 ○さまざまな観点から絵本を分析・考察できる。						
準備学習 (予習・復習)	○事前にテキストを読んで講義に臨むこと。 ○テキストで紹介されている絵本や授業で取り上げた絵本はもちろん、時代やジャンルを問わずにできるだけたくさんの絵本を読み、「視読解」の目を養うこと。						
回	授業計画	授 業 内 容					
1	オリエンテーション	さまざまな絵本の見方・絵本の基礎概念					
2	絵本の歴史1	世界の絵本の歩み					
3	絵本の歴史2	日本の絵本の歩み					
4	絵本のテキスト1	現代の絵本					
5	絵本のテキスト2	文の機能と絵の機能					
6	絵本のテキスト3	画面展開と描写の技法、絵本の視覚表現、色彩表現 時間と空間の表現					
7	絵本のテキスト4	絵本の画材と技法					
8	絵本と読者1	子どもの発達と絵本、赤ちゃん絵本、幼児と絵本 小中学生と絵本					
9	絵本と読者2	障がい者と絵本 絵本の読み合い・読み聞かせ、絵本の選び方					
10	絵本の種類1	創作(物語)絵本、昔話絵本・童話絵本、ファンタジー絵本 ナンセンス絵本・パロディ絵本、文字なし絵本					
11	絵本の種類2	さまざまなジャンルの絵本					
12	個人研究1	※テーマを決め、それに基づいて調査・研究し、レポートとプレゼンテーション資料にまとめる。					
13	個人研究2						
14	発表会						
15	まとめ						
テキスト	生田美秋・石井光恵・藤本朝巳 編著：『ベーシック絵本入門』（ミネルヴァ書房）						
参考文献	適宜、紹介する。						



科目名	子ども文化		必修・選択	選択必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	—
	担当者	猿田 興子	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期		レポート	20%
授業のねらいと概要	子どもを取り巻く社会情勢の変化の中で保育における子ども文化の重要性とその課題について理解を深める。児童文化財を実際に作成し、子どもの前で表現する体験から資質の向上を目指す。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童文化財の基本的な知識や意義を理解し、活用への関心と意欲をもち、実践することができる。</li> <li>・子どもに望ましい児童文化財を調査・研究し、表現する力や保育に活用する技能の基礎を身につけることができる。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	子ども文化を学ぶ中で、幼児の発達理解や基礎的理解につながることを期待する。準備学習として、実際に絵本や紙芝居選択、実演内容の調査などに意欲的に取り組むこと。								
回	授業計画			授業内容					
1	オリエンテーション 子ども文化とは何か			授業の流れとともに大まかな内容について 保育における子ども文化を考える					
2	保育における絵本について 1			様々な絵本の種類に出会う (大型絵本・布絵本・)					
3	保育における絵本について 2			子どもの目線、大人の目線、私の好きな絵本					
4	絵本の選び方・読み方 (実技)			適切な読み方について					
5	紙芝居について 1			その特徴や種類、選び方について					
6	紙芝居について 2			その準備と留意点、演じ方について					
7	ペープサート、エプロンシアター、パネルシアター			保育の場で活用する文化財と出会う					
8	ペープサートの作成・表現 (実技)			適切な表現について					
9	乳幼児のための作品と実践 1			グループで作品の制作について相談					
10	乳幼児のための作品と実践 2			グループで作品製作					
11	乳幼児のための作品と実践 3			グループで作品制作と発表について					
12	乳幼児のための作品と実践 4 振り返り			グループ発表 振り返り課題記述					
13	園行事と子ども文化			園における一年の行事について 行事における子ども文化について					
14	伝承遊びについて 1			伝承遊びの意義と内容について 伝承遊びの援助と保育でのポイント					
15	伝承遊びについて 2 まとめ			わらべ歌との出会いと実践					
テキスト	適宜、授業で資料を配布								
参考文献									

科目名	ボランティア活動	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	評価の方法	
						試験	—
担当者	藤原 法生	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期	レポート	—
						提出課題	50%
						授業態度・意欲	50%
授業のねらいと概要	ボランティア活動についての基本的知識と実際の活動について学ぶ。講義のほか体験学習やグループワークを行い、ともに考える授業とする。						
到達目標	ボランティア活動の意義や目的を理解することができる。 ボランティアの活動領域について理解することができる。 ボランティア活動への意欲が高まる。						
準備学習 (予習・復習)	授業毎にノートとテキストを再読すること。 次回の範囲についてテキストを一読して授業に臨むこと。 普段の生活の中で地域に存在する問題や課題に関心を持つこと。						
回	授業計画	授 業 内 容					
1	オリエンテーション	ボランティアとは何か					
2	ボランティア活動の原理(1)	自発性、主体性					
3	ボランティア活動の原理(2)	社会性、無償性					
4	ボランティア活動の歴史	戦前戦後の活動、災害とボランティア					
5	ボランティア活動の現状	活動の種類と範囲、活動状況					
6	ボランティア活動の組織	ボランティアグループ、NPO					
7	ボランティア支援	ボランティアセンター、コーディネーター					
8	ボランティア活動の種類と実際(1)	障がい者、高齢者とのかかわり					
9	ボランティア活動の種類と実際(2)	児童とのかかわり					
10	ボランティア活動の種類と実際(3)	地域の人とのかかわり					
11	ボランティア活動の種類と実際(4)	環境への対応					
12	ボランティア活動の種類と実際(5)	災害への対応					
13	ボランティア活動の種類と実際(6)	国際活動					
14	福祉教育	教育機関や地域における福祉教育					
15	まとめ	ボランティア活動の展望					
テキスト	柴田謙治・原田正樹・名賀亨編：『ボランティア論』（みらい）						
参考文献	なし						

科目名	子どもと自然		必修・選択	授業形態	講義	評価の方法	試験（小テスト）	20%
	担当者	永井 博敏	単位数	2	学年・期間		1 年 後 期	課題・レポート
授業のねらいと概要	<p>○私たち人間の生活が自然と深くかかわり合っていることに興味を持ち、進んで身近な自然環境に触れようとするアクティブ・ラーニング・パワーの育成をめざす。</p> <p>○子どもの興味・関心の対象となる身近な動植物や科学事象を通して、科学に関する基本的な知識を理解すると共に、子どもたちの探索や製作活動等を支える技能と意欲の向上を図る。</p>							
到達目標	<p>○身近な自然や事象及び人間の生活とのかかわりに関する基礎的な事柄を理解する。</p> <p>○身近な自然事象やその変化などに関して思考し、因果関係等を判断・説明することができる。</p> <p>○身近な科学事象を調べたり、身近な素材の活用体験や製作体験を行ったりすることができる。</p> <p>○フィールドワークで身近な自然に親しみ、主体的に働きかけるなど意欲的な行動ができる。</p>							
準備学習（予習・復習）	<p>自然大好き、動植物（生きもの）大好きな子どもたちの好奇心を支えることができるよう、平素から身近な自然や科学に興味・関心を寄せ、事後学習としては自ら探索等を実践するなどアクティブティにあふれた活動を通して学びの深化・拡充を目指すことを期待する。また、特に事前準備や調査などが前提条件となる授業の場合もあるので、怠りなく行うことが不可欠である。</p>							
回	授業計画			授業内容				
1	オリエンテーション			○授業のねらい及び計画の説明 レディネス調査。期待する“授業外での予習・復習”				
2	身近な植物の基礎知識（秋編）			○本学構内や近隣の道端、公園、野原などに見られる雑草や樹木など、植物に関する基礎的な知識を深める。				
3	フィールドワーク（1） （秋の草花、樹木と紅葉）			○「秋操近隣公園」で、樹木類の紅葉・結実などの実際を観察し、落ち葉や木の実の収集をする。				
4	動物園の役割とその動物たち			○動物園で飼育展示されている動物の特徴などを理解するとともに、動物園の行動展示の意義について学ぶ。				
5	フィールドワーク（2）			○「秋田市大森山動物園」を訪問し、実際の動物観察やふれあい体験などを通して、行動展示の実際を学び取る。				
6	アニマルクイズの作成と実施 （フィールドワークのまとめ）			○動物園の飼育動物の特徴をもとに、班ごとに「子ども向けアニマルクイズ」を作成し、クイズ大会を実施する。				
7	男鹿水族館の魚たち			○男鹿水族館GAOを中心に、水族館で飼育展示されている魚類等の形態や生態等に関する基本的事項の理解をする。				
8	映像資料「ハタハタ謎の産卵」による特徴の理解と表現活動			○映像資料“ハタハタ産卵の謎に迫る”を通して県魚ハタハタの生態（荒海の産卵行動）を知り、それを表現（可視化）する。				
9	ルーペで知る微細な世界（1） 煮干しの解剖体験			○ルーペを使って、身近にある事物の細部を調べ、新たな発見を体験する。				
10	ルーペで知る微細な世界（2） 煮干しの解剖標本の製作			①煮干しの解剖体験によって、カタクチイワシの細部を観察し解剖標本を作製する。展示会を実施し相互評価をする。				
11	ルーペで知る微細な世界（3） 拡大観察による再発見			②身の回りの事物（草花、野菜、木の葉・実・種子、海産物、紙貨幣、印刷物等）の細部観察と簡単スケッチをする。				
12	ルーペの世界から “私の小さな絵手紙”			③（1）～（3）の活動を通して、子どもたちに知らせたい“ルーペの世界”を絵手紙風に文と絵で表現する。				
13	身の回りの物理学 「パスカルとアルキメデス」			○浮沈子の製作と観察を行い、流体の圧力や浮力の原理をもとにその動きの理由を説明できるようになる。				
14	里山の自然と生活（1）映像資料から “自然と人が醸し出す里山の音景色”			○日本人の生活が古くから里山の自然と深い関連性を保ち続けていることを映像資料を通して理解し、レポートにまとめる。				
15	里山の自然と生活（2）映像資料 “ニッポンの里山 ふるさとの絶景”から			① 里山の自然や家々から聞こえる「音」を通して ② 秋田県内の各地に見られる“人と自然”のつながりを通じて				
テキスト	自作プリント資料（A4フラットファイル必要）							
参考文献	<p>特定せず。（その都度、関連する書籍等を紹介する）</p> <p>その他（数倍程度の観察用ルーペを使用する）</p>							

科目名	保育の英語		必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	70%
	担当者	大西 絵理香	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期		レポート	20%
授業のねらいと概要	外国人の親子の入園を想定した教科書の学習を通して、英語による子どもの保育や保護者との対応の方法を学ぶ。また外国人の親子に必要な配慮の仕方を、他の専門知識と合わせて考える。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人園児の保育において、子どもと英語で会話する力を身に付けることができる。</li> <li>子どもに関して必要な連絡を取るために、外国人保護者と英語で会話し、園便り作成や連絡帳記入などを英語で行う力を身に付けることができる。</li> </ul>								
準備学習(予習・復習)	毎回、プリントを使用するので、ノートは特に必要ない。今後の実習や現場で役立つ学習であることを意識し、他の保育の知識を十分に活用して学びを深めてほしい。授業の取り組みにも積極的に参加することを望む。								
回	授業計画			授 業 内 容					
1	Unit 1: First Step to Childcare English			自己紹介の仕方や、保育園内の場所を表す語句を学ぶ。					
2	Unit 2: Welcome to Minato Nursery School			外国人園児入園の際の挨拶の仕方や、家庭調査票の作成、保育室内の物を表す語句を学ぶ。					
3	Unit 3: Time and Numbers			園児の持ち物と登園時間を連絡する表現を学ぶ。					
4	Unit 4: Directions			保育所周辺の場所の案内方法を学ぶ。					
5	Unit 5: Davy Meets His Classmate Takashi			子どもの遊びに誘う表現、園庭の遊具を表す語句を学ぶ。					
6	Unit 6: Dropping Davy Off and Picking Him Up			登園・降園時のあいさつや、子どもの状態や活動を伝える表現を学ぶ。					
7	Unit 7: Jobs at Nursery School			保育の仕事に関する英文を読む。外国人保育の実例資料を読む。					
8	Unit 8: Lunchtime			給食での会話や、献立や調理法などの英語表現を学ぶ。					
9	Unit 9: Toilet Dialog			子どもの排泄に関する表現や、英語による連絡帳記入方法を学ぶ。					
10	Unit 10: Fighting			子どものけんかやトラブルの際の声かけ、子どもの身体部位に関する語句を学ぶ。					
11	Unit 11: Injuries and Illnesses			子どものけがや病気に関する表現や、医療機関、救急処置に関する語句を学ぶ。					
12	Unit 12: Telephone Calls			保護者からの電話連絡に英語で応対する方法や、子どもの急病を英語で電話連絡するための表現を学ぶ。					
13	Unit 13: Field Trip			保育園の年間行事予定や、行事のお知らせの作成方法について学ぶ。					
14	Unit 14: Baby Care			赤ちゃんの育児用品に関する語句や、園便りの作成方法を学ぶ。					
15	Unit 15: Graduation Day			外国人園児の卒園の際の祝福や、保護者と挨拶の表現を学ぶ。					
テキスト	赤松直子・久富陽子共著：『保育の英会話 (Childcare English)』(萌文書林)								
参考文献	大場幸夫・民秋言 他共著：『外国人の子どもの保育』(萌文書林)								

科目名	健康・スポーツ論	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	—
							レポート	30%
担当者	内藤 裕子	単位数	1	学年・期間	1 年 後 期		提出課題	10%
							授業態度・意欲	60%
授業のねらいと概要		生涯を通して、心身ともに健康な生活をおくるために必要な要素について学習する。プリント等資料を使った学習を中心に、討議や発表等を行う。						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>健康を多角的にとらえ、その知識を習得し、日々の生活に生かすことができる。</li> <li>スポーツの重要性を理解し、実際の活動に活かすことができる知識を身につける。</li> </ul>						
準備学習 (予習・復習)		<p>健康を維持するためには何が必要なのかを、日常的に考える。  自分の心身の状態を再認識し、前向きに生きていく術を探す力を養う。  生涯を通し、スポーツを楽しめる方法を積極的に習得することを期待する。</p>						
回	授業計画		授業内容					
1	ガイダンス		授業内容の説明					
2	健康についての理解 1		健康の定義					
3	健康についての理解 2		健康な生活について					
4	健康な生活について 1		生活リズムについて					
5	健康な生活について 2		睡眠・運動・食事の重要性について					
6	健康な生活について 3		運動・スポーツの重要性について					
7	健康な生活について 4		食事の重要性について					
8	食について 1		ダイエットについて					
9	食について 2		基礎代謝と食の関係					
10	体力についての理解		体力の意義					
11	運動と体力の関係		体力作りの方法について					
12	スポーツについて 1		スポーツの語源・成り立ちについて					
13	スポーツについて 2		スポーツの効果について					
14	スポーツについて 3		スポーツの必要性、生涯スポーツについて					
15	まとめ		質疑応答					
テキスト		なし						
参考文献		なし						

科目名	体育実技	必修・選択	必修	授業形態	実技	評価の方法	試験	—
							レポート	—
担当者	内藤 裕子	単位数	1	学年・期間	1 前期		提出課題	20%
							授業態度・意欲	80%
授業のねらいと概要	生涯にわたって、スポーツやレクリエーションに親しめる能力を身につける。ダンスや球技を通じて、スポーツの技術のみがく。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの重要性や意義についての知識を習得する。</li> <li>・積極的に、スポーツに関わることができる。</li> <li>・仲間と関わりを持つことで社会性を身につける。</li> </ul>							
準備学習 (予習・復習)	各スポーツ競技のルールを積極的に理解しておく。日常的に、体力強化に努める。実技が中心となるため、動きやすい服装を用意すること。							
回	授業計画	授 業 内 容						
1	ガイダンス	授業内容の説明						
2	体力作りのための運動1	楽しくできるウォーミングアップの紹介						
3	体力作りのための運動2	ストレッチ運動、集団あそびなど						
4	学外研修のための創作活動1	学外研修の意義や内容を説明						
5	学外研修のための創作活動2	ダンスについての学習						
6	学外研修のための創作活動3	実際にダンスステップを経験し振り付けを考える						
7	学外研修のための創作活動4	細かな部分の修正						
8	学外研修のための創作活動5	発表・動きについての話し合い						
9	ラジオ体操	ラジオ体操の意義・歴史などを知り、体験する						
10	球技1	バスケットボール・卓球・バレーボール等						
11	球技2	バスケットボール・卓球・バレーボール等						
12	球技3	ドッチボール等						
13	レクリエーション1	集団で運動あそびを経験し学ぶ						
14	レクリエーション2	集団で運動あそびを経験し学ぶ						
15	まとめ	スポーツの重要性について再確認する						
テキスト	なし							
参考文献	なし							

科目名	情報処理	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	
						試験	—
担当者	杉館 俊彦	単位数	2	学年・期間	1 前期	レポート	—
						提出課題	80%
						授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要	ITリテラシーを習得するため、パソコンの基礎からインターネットの活用まで実習を通して学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の必須技能である「読み・書き・パソコン」を基礎から学び、実社会に出てから仕事に直結する技能を確実に身につける。</li> <li>・課題を通して卒業後に実社会に入った時のワーク時間の使い方、個人データの保護の重要性を学ぶ。</li> </ul>						
準備学習 (予習・復習)	授業の最後に次回講義の予告編として、教科書の該当ページ・身に付けるスキル名を説明と課題の概要を説明。 教科書を読み、課題を理解しておくことを予習課題とする。						
回	授業計画	授業内容					
1	ガイダンス	本学パソコン室の機器の使用方法を説明。					
2	マウス操作とキーボードからの入力	マウス操作に習熟する。(ドラッグ・右クリック等)					
3		「ペイント」ソフトを使い、イラストの作成・データの保管・読み込みを習得する。文章の効果的入力を習得する。					
4		・文節の切り方、再変換の技法を身に付ける。					
5	ワープロソフトの	1)「園おたより」を題材にワープロ文書の作成技法を学ぶ。					
6	機能と操作を学ぶ	2) Wordのオートシェーブ機能を活用して簡単な、イラストを短時間で作成できる技法を学ぶ。					
7		3) イラストの入った「園おたより」を作成し、印刷まで学ぶ。					
8		4) クリップアートとワードアートの技法を習得する。					
9							
10							
11	パワーポイントを使った画像の作成	1)「ひよこ」の作成を通し、画像の重なり・グループ化を学ぶ。					
12		2)「案内図・ウサギ」の作成を通し図形の変形を学ぶ。					
13		3)「りす」画像作成を通じ曲線・フリーハンドの技法を学ぶ。					
14							
15	表計算ソフトの	1)「クラス表」の作成を通して簡単な表作成技術を学ぶ。					
16	機能と操作を学ぶ	2)「年間カレンダー」の作成を通して、オートフィル機能・シートの複写技術を習得する。					
17		3)「児童台帳」の作成を通じて、入力規則を習得し卒園・入園・進級の操作技法を習熟する。データベース機能を理解する。					
18		4)「身体計測記録台帳」の作成を通して、関数計算とグラフの作成方法を習得する。					
19							
20							
21							
22							
23	ワープロソフトの	5)年賀状・クリスマスカードの作成を通じ、差し込み印刷を理解し、縦書きの実習を行う。					
24	機能と操作を学ぶ	6)インターネットからの画像のダウンロードと図形の貼り込みを実習する。					
25							
26							
27	パワーポイントを使った	プレゼンテーションソフトを活用した発表の準備を行う。					
28	プレゼンテーションスライドの作成	プレゼンテーションソフトへの写真・イラストの貼り込みを通じてマルチメディアの有効活用ができようにする。アニメーションの使い方を理解する。					
29							
30							
テキスト	『保育者のためのパソコン講座 Windows7・Office2007/2010/2013 対応版』(萌文書林)						
参考文献							

科目名	情報処理 (経験者)	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	—
							レポート	—
担当者	杉館 俊彦	単位数	2	学年・期間	1 前期		提出課題	80%
							授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要	ITリテラシーを習得するため、パソコンの基礎からインターネットの活用まで実習を通して学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の必須技能である「読み・書き・パソコン」を基礎から学び、実社会に出てから仕事に直結する技能を確実に身につける。</li> <li>・課題を通して卒業後に実社会に入った時のワーク時間の使い方、個人データの保護の重要性を学ぶ。</li> </ul>							
準備学習 (予習・復習)	授業の最後に次回講義の予告編として、教科書の該当ページ・身に付けるスキル名を説明と課題の概要を説明。 教科書を読み、課題を理解しておくことを予習課題とする。							
回	授業計画	授業内容						
1	ガイダンス	本学パソコン室の機器の使用方法を説明。						
2	マウス操作とキーボードからの入力	マウス操作に習熟する。(ドラッグ・右クリック等)						
3		「ペイント」ソフトを使い、イラストの作成・データの保管・読み込みを習得する。文章の効果的入力を習得する。						
4		・文節の切り方、再変換の技法を身に付ける。						
5	ワープロソフトの	1)「園おたより」を題材にワープロ文書の作成技法を学ぶ。						
6	機能と操作を学ぶ	2) Wordのオートシェーブ機能を活用して簡単な、イラストを短時間で作成できる技法を学ぶ。						
7		3) イラストの入った「園おたより」を作成し、印刷まで学ぶ。						
8		4) クリップアートとワードアートの技法を習得する。						
9								
10								
11	パワーポイントを使った画像の作成	1)「ひよこ」の作成を通し、画像の重なり・グループ化を学ぶ。						
12		2)「案内図・ウサギ」の作成を通し図形の変形を学ぶ。						
13		3)「りす」画像作成を通じ曲線・フリーハンドの技法を学ぶ。						
14								
15	表計算ソフトの	1)「クラス表」の作成を通して簡単な表作成技術を学ぶ。						
16	機能と操作を学ぶ	2)「年間カレンダー」の作成を通して、オートフィル機能・シートの複写技術を習得する。						
17		3)「児童台帳」の作成を通じて、入力規則を習得し卒園・入園・進級の操作技法を習熟する。データベース機能を理解する。						
18		4)「身体計測記録台帳」の作成を通して、関数計算とグラフの作成方法を習得する。						
19								
20								
21								
22								
23	ワープロソフトの	5)年賀状・クリスマスカードの作成を通じ、差し込み印刷を理解し、縦書きの実習を行う。						
24	機能と操作を学ぶ	6)インターネットからの画像のダウンロードと図形の貼り込みを実習する。						
25								
26								
27	パワーポイントを使った	プレゼンテーションソフトを活用した発表の準備を行う。						
28	プレゼンテーションスライドの作成	プレゼンテーションソフトへの写真・イラストの貼り込みを通じてマルチメディアの有効活用ができようにする。アニメーションの使い方を理解する。						
29								
30								
テキスト	『保育者のためのパソコン講座 Windows7・Office2007/2010/2013 対応版』(萌文書林)							
参考文献								



科目名	音楽の理論と合奏			必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	—
	担当者	東海林 美代子	単位数						1	学年・期間
授業のねらいと概要				子どもの音楽表現活動を支えるために必要な音楽の基礎理論を学び、楽譜を理解できるようにする。子どもが表現しやすい簡易楽器の基礎的奏法を習得し、全体およびグループでの合奏を通して表現する喜びを味わう。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の基礎理論を理解する。(音符・休符、音程、調、音階等)</li> <li>・♯・♭5個までの音階が弾け、書ける。</li> <li>・簡易楽器の奏法を習得し、合奏を楽しむ。</li> </ul>									
準備学習(予習・復習)	「音程」「音階」については、授業のノートを活用して十分に復習をすること。									
回	授業計画	授業内容								
1	授業内容について	保育における音楽 幼児が親しみやすい楽器 リズム遊び 自己紹介をする								
2	楽譜について(1)	楽譜に書かれている要素の理解 音符と休符 拍と拍子 小節など								
3	楽譜について(2)	音名と記号								
4	楽譜について(3)	様々な音楽用語の理解								
5	音程(1)	鍵盤から「全音と半音」、「音程」を理解する								
6	音程(2)	いろいろな音程								
7	音程(3)	完全・長・短・増・減音程について図を使って理解する								
8	音程(4)	音程確認テスト								
9	音階(1)	いろいろな音階								
10	音階(2)	いろいろな長音階①(♯系) 調・調号・主音の理解、音階を弾く 器楽合奏「おどろう楽しいポーレチケ」								
11	音階(3)	いろいろな長音階②(♭系) 調・調号・主音の理解、音階を弾く 器楽合奏「おどろう楽しいポーレチケ」								
12	音階(4)	演習テスト ミュージックベル合奏「Are You Sleeping?」								
13	音階(5)	調について 確認テスト ミュージックベル合奏「手をたたきましょう」								
14	小曲の合奏Ⅰ・Ⅱ	器楽合奏「チョップスティックス」								
15	小曲の合奏Ⅱ	トーンチャイム・ミュージックベルを中心とした合奏 「大きな古時計」「ラバースコンチェルト」								
15	小曲の合奏Ⅱ まとめ									
テキスト	なし(必要に応じてプリントを配布します) ※五線ノートおよび鍵盤ハーモニカ唄口を各自準備すること									
参考文献	『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)、『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社)、聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学)									

科目名	声楽Ⅰ		必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	30%
	担当者	櫻庭 優佳	単位数	1	学年・期間	1 年 通 年		レポート	—
授業のねらいと概要	幼児教育者に必要な歌唱に関する基礎的な知識と技能を身につけるとともに、音楽を積極的に楽しむ心と感性を養う。 合唱や少人数アンサンブル等の様々な音楽体験を積み、音楽への理解を深める。								
到達目標	リズム・メロディー・ハーモニーを理解する。 良い姿勢で発声し歌唱することができる。 ミサ曲や聖歌、式歌等の学校行事に関する歌を歌うことができる。								
準備学習 (予習・復習)	声楽Ⅰでは多数の聖歌に取り組むので、学習する曲について、毎回譜読みをして臨み、授業後には必ず復習をすること。 授業で学習した曲の音程やリズム等について不安のある場合には、その都度必ず質問をし、練習に生かすこと。								
回	授業計画			授 業 内 容					
1	授業のオリエンテーション			授業内容の説明 クラスの仲間と音楽を通して触れ合う					
2	Solfege①リズム打ち			リズム打ち(音符の長さや拍子を理解する)					
3	Solfege②コールユブゲン			リズムと音程を理解しているか、視唱に取り組む					
4	Solfege③ミニテスト			3拍子、4拍子、6拍子についてリズム打ちのミニテストを行う					
5	ミサ曲・聖歌(1)①50番			「み心のミサ」に向けてミサ曲と聖歌に取り組む					
6	ミサ曲・聖歌(1)②1,42番			※聖歌集『神をたたえて』より授業計画欄記載の聖歌を歌う					
7	ミサ曲・聖歌(1)③2番								
8	ミサ曲・聖歌(1)④3,45番								
9	ミサ曲・聖歌(1)⑤33番								
10	季節の歌(1)①練習・選曲			テキストや図書館の楽譜等から、たくさんの季節(春・夏)の歌を知り、日本語の美しさを感じながら歌い、グループ毎の発表に取り組む					
11	季節の歌(1)②グループ練習								
12	季節の歌(1)③発表								
13	Ave Maria①言葉・発音・意味			アルカデルト作曲「Ave Maria」(2声)に取り組む					
14	Ave Maria②音取り			・正しく発音し、言葉の意味を理解する					
15	Ave Maria③パート練習			・2声の音取りをし、自分のパートを決める					
16	Ave Maria④グループ毎の練習			・6～8人の少人数アンサンブルでハーモニーを感じる					
17	Ave Maria⑤発表・ミニテスト								
18	ミサ曲・聖歌(2)①26,30番			「クリスマス・ミサ」に向けてミサ曲と聖歌に取り組む					
19	ミサ曲・聖歌(2)②27,28,29番			※聖歌集『神をたたえて』より授業計画欄記載の聖歌を歌う					
20	ミサ曲・聖歌(2)③7番								
21	季節の歌(2)①練習・選曲			テキストや図書館の楽譜等から、たくさんの季節(秋・冬)の歌を知り、日本語の美しさを感じながら歌い、グループ毎の発表に取り組む					
22	季節の歌(2)②グループ練習								
23	季節の歌(2)③発表								
24	合唱を楽しむ①自由曲の選曲			アンサンブルコンテストに向けて、クラス合唱に取り組む					
25	〃 ②課題曲音取り			・課題曲は身体表現も加えてパフォーマンスする					
26	〃 ③課題曲合唱練習			・自由曲は各クラスのそれぞれの響きを充実させて合唱する					
27	〃 ④自由曲音取り								
28	〃 ⑤自由曲合唱練習								
29	〃 ⑥課題曲・自由曲の練習								
30	声楽Ⅰのまとめ			1年間の授業の成果として、クラス合唱を演奏・発表する					
テキスト	聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学) 『幼児のための音楽教育』(教育芸術社) ※その他 随時プリント配布								
参考文献	『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版) ※上記(器楽Ⅰのテキスト)に関しては、必要な際に持ってくるよう指示する								

科目名	器楽Ⅰ(ピアノ)	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	
						試験	50%
担当者	東海林 美代子 他8名	単位数	1	学年・期間	1 年 通 年	レポート	—
						提出課題	—
						授業態度・意欲	50%
授業のねらいと概要	幼児教育者として子どもの表現活動を支えるピアノの基礎的な演奏技術を習得し、表現力を養う。また、簡易伴奏による子どもの歌の弾き歌いができるようにする。授業は個人の進度や能力に応じたレッスン形式で行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育者として必要なピアノの基礎的な演奏技術を習得する。</li> <li>・音楽に対する感性を磨き、表現力を高める。</li> <li>・子どもの歌を簡易伴奏によって弾き歌いができる。</li> </ul>						
準備学習(予習・復習)	毎回課題を十分に練習し授業に臨むこと。練習については毎日行うことが望ましい。						
回	授業計画	授 業 内 容					
1	事前学習課題の確認(視唱)	事前学習課題(視唱)への取り組みを確認する					
2	事前学習課題の確認(ピアノ)	事前学習課題(ピアノ)への取り組みを確認する					
3	ピアノレッスン	1. 個人の進度・能力に応じた練習曲と楽曲を課し、レッスン形式で行う中で(1時間に5名程度)、演奏及び練習のポイントについて、奏法や運指法等具体的に指導する					
4		2. ピアノ経験者には、グループレッスンにより、より高い音楽表現のできる奏法を習得させる(1時間に4名程度)					
5		※必要に応じて共通テキストの他ブルグミュラー「18の練習曲」					
6		ギロック「こどものためのアルバム」等を使用する					
7							
8							
9							
10	チャペルコンサート(6/16予定)	聖堂にて音楽担当者によるコンサート「音楽と祈りの集い」(独唱、三重唱、オルガン独奏など)を鑑賞し、ともに聖歌を歌うことで「み心のミサ」へむけて気持ちを高める					
11							
12							
13							
14	前期実技試験	進度に合った曲を担当者と話し合っ選曲し、1曲を演奏する(例:バイエル練習曲第66番、同78番、同80番等)					
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23	後期実技試験(弾き歌い)に向けて	簡易伴奏による弾き歌いの課題(子どもの歌)を3曲以上練習する(例:思い出のアルバム、ふしぎなポケット、お花がわらった等)					
24							
25							
26							
27							
28							
29	後期実技試験(弾き歌い)	1曲を担当者と話し合っ選曲し、演奏する					
30	↓まとめ	次年度へ向けての課題を確認する					
テキスト	東京福祉保育専門学校編:『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) ※上記テキスト終了後は個々の進度・能力に応じたものを使用する						
参考文献	『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)						

科目名	幼児造形 I		必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	—
	担当者	小笠原 京子	単位数	1	学年・期間	1 前期		レポート	—
授業のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくりだす喜びや楽しさを味わいながら造形的な創造性を培うとともに、造形表現に関する基礎的な知識・技能を習得することや保育の環境構成の大切さ、幼児の造形活動についての関心を高めることをねらいとしている。</li> <li>・多様な描画材料の経験や紙工作の基礎など、実技を中心とした制作活動となる。</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自からの発想や構想で制作する楽しさを味わおうとする意欲を持つことができる。</li> <li>・色彩の基本原理や配色の調和、基本形の作り方など、色や形の基本を理解することができる。</li> <li>・造形材料・素材のもつ性質や特徴、技法などを理解し、制作することができる。</li> <li>・子どもの絵の特徴についての理解に努め、子どもの絵や作品に共感できる。</li> </ul>								
準備学習(予習・復習)	事前の準備として、制作に関する自分なりのイメージや構想をもって授業に臨んで欲しい。また事後学習として、雑な制作で終了せず、不足のところは休み時間、放課後、家庭での発展的な構想・制作となるよう努めて欲しい。制作活動が中心となるので、スケッチブック、はさみ、のりなどは各自常に準備するとともにオリジナルな素材についても関心を高め、準備すること。								
回	授業計画			授業内容					
1	ガイダンス 保育としての造形活動			授業内容を見通し、各自準備するものなど確認する。 幼児の造形表現について知る。					
2	色彩の基礎			色の三要素、三原色、有彩色、無彩色などに触れ、水彩絵の具を使って三原色から色相環を制作する。					
3	描画素材の体験と表現活動 I			描画表現のさまざまな技法を体験する。 クレヨン、パス、パステル、水彩絵の具の特色。					
4	描画素材の体験と表現活動 II			スクラッチ、フロッタージュ、ステンシル、デカルコマニーにじみ、ぼかし、バチックなどの技法について知り、制作する。					
5	見て描く活動			季節の草花を描く。					
6	動くおもちゃ			いくつかの<動くおもちゃのしくみ>について知る。					
7	メリーゴーランドの制作 I			自分の構想で、素材を集め、回るものを作り飾る。					
8	メリーゴーランドの制作 II			自然素材、紙、毛糸、モール、紙粘土など					
9	パッケージデザイン			球体を入れるためのパッケージデザインを学ぶ。					
10	ペーパークラフト			さまざまな紙のもつ特質を知り、ペーパークラフトの基本を学ぶ。 五角形、六角形の基本形の作り方を学ぶ。					
11	飛び出すカード I			切る、折るなどの技法を使い、飛び出すしくみを理解する。					
12	飛び出すカード II			テーマを選択し、プレゼントするカードを制作する。					
13	紙版画の制作			凸版、凹版の実際を知り、紙、布を使って、作品を制作する。					
14	幼児の絵について			子どもの発達段階と子どもの絵の特徴についての理解を深める。					
15	まとめ			幼児の絵を鑑賞しながら、よみとりを検討する。 幼児の表現活動の指導について知る。					
テキスト									
参考文献		槇 栄子：『保育をひらく造形表現』（萌文書林） 『色彩ナビ』（財団法人日本色彩研究所）							

科目名	福祉基礎理論	必修・選択	選 択 (保資必修)	授業形態	講 義	評価の方法	
						試験	80%
						レポート	—
						提出課題	—
担当者	藤原 法生	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期	授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要	社会福祉の基本的理念や対象・制度について学ぶ。現代の福祉問題・対象者とその支援について、普段の生活に関連付けながら講義を行う。						
到達目標	社会福祉の基本的理念を理解することができる。各種制度や社会資源に関する知識と活用方法を理解することができる。普段の生活と社会福祉の関連性についての関心が高まる。						
準備学習 (予習・復習)	授業毎にノートとテキストを再読すること。次回の範囲についてテキストを一読して授業に臨むこと。新聞やニュースで関連する情報を得ること。						
回	授業計画			授 業 内 容			
1	オリエンテーション			福祉とは何か、社会福祉の理念、社会福祉と児童家庭福祉			
2	現代社会の理解			少子高齢社会、家族と地域の変化			
3	社会福祉の歴史			日本と海外の社会福祉の歴史			
4	社会福祉の行政と財政			国と地方の行財政			
5	社会福祉の制度と実施体制(1)			社会保障制度(医療、年金)			
6	社会福祉の制度と実施体制(2)			公的扶助(公的扶助と社会保険、生活保護の目的・原理・原則)			
7	社会福祉の制度と実施体制(3)			公的扶助(生活保護の種類と内容、実施体制、動向)			
8	社会福祉の制度と実施体制(4)			高齢者福祉(高齢者の理解、高齢者福祉の理念、法体系)			
9	社会福祉の制度と実施体制(5)			高齢者福祉(介護保険制度)			
10	社会福祉の制度と実施体制(6)			障がい者福祉(障がいの理解、障がい者福祉の理念)			
11	社会福祉の制度と実施体制(7)			障がい者福祉(障がい者福祉対策、法体系)			
12	社会福祉の制度と実施体制(8)			福祉のマンパワー、相談援助			
13	社会福祉の制度と実施体制(9)			利用者保護(情報提供、第三者評価、権利擁護、苦情解決)			
14	地域の福祉(1)			地域福祉(地域福祉の理念、コミュニティ)			
15	地域の福祉(2)			地域福祉(住民参加、地域福祉の展望)			
テキスト	直島正樹・原田旬哉編著：『社会福祉』(萌文書林)						
参考文献	なし						

科目名	児童福祉と家庭		必修・選択	選択 (保資必修)	授業形態	講義	評価の方法	試験	80%
	担当者	藤原 法生	単位数	2	学年・期間	1 前期		レポート	—
授業のねらいと概要	子ども家庭福祉の概要と福祉の実現について学ぶ。 児童や家庭に関する身近な話題について情報交換しながら現代の課題について考える。								
到達目標	子どもの権利と子ども家庭福祉の基本的理念を理解することができる。 子ども家庭福祉の現状、課題、取り組みについて理解することができる。 子どもや家庭を取り巻く状況への関心が高まる。								
準備学習 (予習・復習)	授業毎にノートとテキストを再読すること。 次回の範囲についてテキストを一読して授業に臨むこと。 新聞やニュースで関連する情報を得ること。								
回	授業計画				授業内容				
1	オリエンテーション				児童家庭福祉の理念と概念、福祉と保育				
2	子ども家庭福祉の現状(1)				少子社会、子どもが育つ環境				
3	子ども家庭福祉の現状(2)				子育ての課題と支援				
4	子ども観と権利保障				子ども観の変遷と子どもの権利				
5	子ども家庭福祉の歴史の変遷				戦前戦後の児童福祉				
6	子ども家庭福祉の制度と実施体系(1)				制度と法体系、国と地方の行政機関、専門行政機関				
7	子ども家庭福祉の制度と実施体系(2)				児童福祉施設の体系と運営、利用形態				
8	子ども家庭福祉の制度と実施体系(3)				子ども児童福祉のマンパワー				
9	子ども家庭福祉の施設(1)				施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)				
10	子ども家庭福祉の施設(2)				施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)				
11	子ども家庭福祉の施設(3)				施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)				
12	子ども家庭福祉の施設(4)				施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)				
13	家庭への福祉サービス(1)				子育ての課題とニーズへの対応				
14	家庭への福祉サービス(2)				子育て支援				
15	地域における子ども家庭福祉				地域の環境と課題、住民主体の支援体制と活動				
テキスト	吉田眞理著：『児童の福祉を支える児童家庭福祉』(萌文書林)								
参考文献	なし								

科目名	子どもの保健 I A		必修・選択	選択 (保資必修)	授業形態	講義	評価の方法	試験	100%
	担当者	高橋 美砂子	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期		レポート	—
授業のねらいと概要	小児の成長発達を理解し、健やかな子どもの成長に必要な生活習慣を支援できる。子どもの病気や不慮の事故に対して、予防及び初期対応できる知識を習得する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>小児の成長発達を理解し、健康的な生活を支援できる知識を理解する。</li> <li>小児の病気や主な症状への対処を理解し、保育者としての態度を身につける。</li> <li>小児の不慮の事故を理解し、予防・対処できる知識を理解する。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	現代の子どもの生活背景と子どもの健康問題に関心を持ち授業に臨むこと。								
回	授業計画			授業内容					
1	我が国の小児の諸統計 小児に関する施策			出生数、合計特殊出生率、年少人口、乳児死亡率 少子化対策、健やか親子 2 1					
2	小児各期の健康問題 生命の誕生、年齢別死亡順位			小児期の分類と健康問題 生命の誕生、年齢別死亡順位、SIDS、10 代の喫煙の影響					
3	小児の成長発達 新生児の特徴			成長発達の原則、身長・体重、発達評価、子どもの発達と支援 (DVD) 新生児の特徴、新生児の血液免疫の特徴					
4	消化機能の特徴、母乳栄養 乳歯			乳児の消化吸収、母乳栄養、卒乳 乳歯の萌出時期と虫歯予防					
5	小児の生理 呼吸・循環、自律神経			呼吸、胎児循環、脈拍、血圧 自律神経					
6	脳と感覚器の発達			脳と脳神経の発達 (DVD) 感覚器の発達 子どもの脳と慢性疲労、メディアと健康問題					
7	小児の排泄 水分代謝			腎臓の働き、夜尿症の生活指導 体の水分の割合、年齢別必要な水分量、小児の水分の取り方					
8	子どもの体温 小児の睡眠			子どもの体温の特徴、低体温の問題 子どもの睡眠の特徴と意義					
9	人間性の発達課題			エリクソンの発達課題と接し方の基本 自己の発達課題振り返り (レポート)					
10	子どもの病気 発疹を伴う発熱の主な病気			子どもの病気の理解、病児への対応の原則 主な症状に対する対処、発疹を伴う発熱の主な病気					
11	免疫機能と予防接種 予防接種対象疾患			予防接種ワクチンと適応、予防接種による副作用 予防接種対象疾患					
12	先天奇形、代謝異常 障害児の成長発達			先天奇形、先天性代謝異常検査、ダウン症候群 障害児を生んだ親の反応、障害児の生活支援 (DVD)					
13	アレルギー性疾患 消化器疾患			小児喘息、アトピー性皮膚炎、子どものスキンケア、川崎病 肥厚性幽門狭窄、腸重積、虫垂炎、周期性嘔吐症、感染性胃腸炎					
14	呼吸器疾患、循環器疾患 血液疾患			扁桃炎、仮性クroup、肺炎、先天性心疾患 鉄欠乏性貧血、血友病、白血病 母子病棟 (DVD)					
15	腎臓疾患、内分泌疾患 事故対策			糸球体腎炎、尿路感染症、小児糖尿病、甲状腺機能低下・亢進 熱性けいれんとてんかん、小児の年齢別不慮の事故、事故対策					
テキスト	佐藤 益子：『子どもの保健 I』（ななみ書房）								
参考文献	小西 行郎：『赤ちゃん脳科学』（集英社） 服部 祥子：『生涯人間発達論』（医学書院）								

科目名	子どもの保健Ⅱ		必修・選択	選 択	授業形態	演 習	評価の方法	試験	80%
	担当者	佐藤 ヨシ						単位数	1
授業のねらいと概要			保育する子どもの成長・発達が日々の生活、環境と大きく関わっていることを理解し、子どもの健全な心身の育成を支援するため、保健活動における知識および技術、態度を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの保健活動の実際を理解し、子どもの育ちに責任があることを認識できる。</li> <li>子どもの健全な育成を支援するための養護に関する知識・技術を理解し実践できる。</li> <li>保育の場における感染予防や事故防止について具体的に考え対処できる。</li> </ul>								
準備学習(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各授業内容の基礎知識は「子どもの保健Ⅰ」で学習して授業に臨むこと。</li> <li>授業内容を「子どもの保健Ⅰ」と関連づけ理解を深めること。</li> <li>「子育てハッピーアドバイス」を随時参考にして子どもと関わること。</li> </ul>								
回	授業計画			授 業 内 容					
1	子どもの保健とは			ガイダンス 赤ちゃんの理解(DVD 赤ちゃんからのメッセージ)					
2	子どもの発育・発達の把握			身体計測(身長・体重・頭囲の計測など)、身体発育の評価					
3	子どもの保健と環境 子どもの生活習慣と心身の健康			睡眠、食習慣、排泄習慣、清潔習慣、衣服と健康 育児の実際(DVD 育児マニュアル)					
4	子どもの発達援助と保健活動 乳幼児の養護の実際1			乳児の抱き方・背負い方、おむつ交換					
5	乳幼児の養護の実際2			食事の与え方(母乳、人工栄養、調乳・授乳方法など)					
6	乳幼児の養護の実際3			身体の清潔(沐浴) 輝ける子に育てるために(ほめ方、しかり方など)					
7	保健活動の計画と評価			年間保健計画・保健活動 子どもの健康状態の観察					
8	子どもの疾病と適切な対応 感染症の予防と対策			感染の仕方と対策、予防接種					
9	個別な配慮を必要とする 子どもへの対応			熱性けいれん、てんかん、食物アレルギーなど					
10	事故防止と健康管理・安全管理 けがや急な病気への対応			事故防止と組織的取組、子どもの事故の現状 乳幼児の誤飲・誤嚥の対応					
11	子どもに起きやすい事故の応急手当			ショック、止血法、頭部外傷、熱傷、熱中症などの応急処置					
12	災害への備えと危機管理			危機管理、防災計画					
13	子どもに起こりやすい症状とケア			症状の観察および対処方法(発熱、嘔吐、発疹、けいれんなど) 薬法、薬の与え方					
14	心とからだの健康問題と地域保健活動			発達障害 地域における育児支援の現状					
15	子どもの救命救急(救命講習会)			子どもの救命救急、心肺蘇生法・AEDの実技、 (秋田市消防本部救急隊指導)					
テキスト	佐藤益子編：『子どもの保健Ⅱ』(ななみ書房) 明橋大二：『子育てハッピーアドバイス』(1万年堂出版)								
参考文献	佐藤益子編：『子どもの保健Ⅰ』(みなみ書房) 山本恵子監修：『写真でわかる小児看護技術』(インターメディカ) 鴨下重彦・柳澤正義監修：『子供の病気の地図帳』(講談社)								



科目名	小児栄養		必修・選択	選択 (保資必修)	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	70%
	担当者	佐々木 三津子	単位数	2	学年・期間	1 年 前 期		レポート	—
授業のねらいと概要	小児栄養は身体発育や精神発達に密接な関連があることを知る。また、食習慣及び生活習慣の基礎が形成される大切な時期であることを理解する。各期(乳児期・幼児期・学童・思春期)の栄養と食生活の特徴を学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児期は栄養状態の適否が発育、発達に影響することを理解する。</li> <li>・成人期と異なる栄養と食生活の特徴を理解する。</li> <li>・食育に関する基本的知識を学びその大切さを理解する。</li> <li>・調理実習を通じ適切なコミュニケーション、作業効率を考えた手順等を習得する。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	栄養については、人の一生、ライフサイクルに沿って広く関心を持ってほしい。 予習：復習 1～12回 テキスト第2部、第3部を参照し要点を把握する。 予習 13～14回 調理実習は手順、役割分担を各班で確認する。								
回	授業計画			授業内容					
1	授業内容 進め方 小児期における栄養の重要性			授業内容、進め方 小児期の特徴・小児期の栄養と食生活					
2	栄養生理			栄養の定義、栄養素について					
3	食事摂取基準 摂食・消化機能の発達 栄養状態の評価			日本人の食事摂取基準(2015年版)、小児の食物摂取機序 栄養評価について					
4	献立・調理の基本			合理的な食生活をするための献立・調理について					
5	乳児期の心身の発達と栄養			乳汁栄養、離乳栄養について					
6	幼児期の心身の発達と栄養			幼児期栄養の特徴と必要性 栄養生理・栄養上の注意等について					
7	学童・思春期の心身の発達と栄養			学童・思春期における心身の発達に対して払うべき栄養上の配慮 摂取上の問題点等について					
8	食育			食育の基本 小児期における食育 指導媒体について 食育の担い手として実践力に結びつける					
9	生涯発達と子どもの栄養 家庭における食事と栄養			生涯発達について 家庭の食事と栄養の特徴					
10	食品と食の安全			食品の選び方 食の安全性					
11	施設における食事と栄養 障害のある子どもの栄養 食物アレルギーの対応			集団における給食について 障害のある子どもの摂食と栄養について 食物アレルギーの食事と栄養管理について					
12	疾病および体調不良の子どもへの対応			疾病および体調不良時の栄養管理について					
13	調理実習(1)			離乳期の献立					
14	調理実習(2)			幼児期の献立					
15	授業のまとめ								
テキスト	『新版 子どもの食生活－栄養、食育、保育－』(ななみ書房)								
参考文献	授業の中で適宜紹介する。								

科目名	保育者論	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	—
							レポート	60%
担当者	加藤 順子	単位数	2	学年・期間	1 年期 前 期		提出課題	30%
							授業態度・意欲	10%
授業のねらいと概要	保育者の役割や制度的位置づけについて理解する。保育場面の具体的な姿を通して、保育者の基本的な役割や職務内容について学び、その専門性や協働、専門職的成長について理解する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者の役割や倫理、制度的な位置づけについて理解する。</li> <li>保育所や認定こども園の一日と保育者の役割や職務内容について理解する。</li> <li>具体的な場面を通して、保育者の専門性や専門職的成長について理解する。</li> <li>保護者や地域社会、関係機関等との連携について理解する。</li> </ul>							
準備学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。</li> <li>保育者としての役割や責務を考え、必要な習慣や態度を身に付けてほしい。</li> </ul>							
回	授業計画	授 業 内 容						
1	「保育者」について	保育者の役割や倫理、制度的位置づけ						
2	保育者の役割	保育所や認定こども園の一日と保育者の役割や職務内容						
3	保育方法とは	保育方法の基本						
4	子ども理解	子ども理解に基づく保育						
5	環境を通して行う教育・保育	環境を通して行う教育・保育と保育者の役割						
6	遊びを通しての教育・保育(1)	遊びの教育・保育的な意義						
7	遊びを通しての教育・保育(2)	遊びの発達の理解と保育者の関わり						
8	発達の時期に応じた保育(1)	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育						
9	発達の時期に応じた保育(2)	0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育						
10	保育の展開と評価	保育の計画・実践・評価						
11	保育の記録	保育の記録の必要性、記録の仕方						
12	保護者・家庭との連携	保育者と保護者・家庭との連携、保護者支援						
13	地域社会や関係諸機関との連携	地域社会との連携、小学校との連携、関係諸機関との連携						
14	保育者の専門性	保育者の専門性と省察						
15	保育者の専門職的成長	保育者の成長と同僚関係						
テキスト	汐見稔幸・大豆生田啓友編：『最新保育講座2 保育者論』（ミネルヴァ書房） 大豆生田啓友他編：『最新保育講座6 保育方法・指導法』（ミネルヴァ書房） 『幼稚園教育要領解説』（フレーバル館）『保育用語辞典』（ミネルヴァ書房）							
参考文献	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』							

科目名	保育の基礎理論		必修・選択	選択 (保資必修)	授業形態	講義	評価の方法	試験	70%
	担当者	佐々木 啓子	単位数	2	学年・期間			1 年 後 期	レポート
授業のねらいと概要	子どもの育ち、保育の意義、保育制度・歴史など、保育について基本となる原理や考え方について学び、保育のしくみ、保育過程、保育方法など、日常の保育活動を支える理論や保育者の役割について理解する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の基本を知り、より広い視野で保育の意義や課題、機能について理解する。</li> <li>・社会の子どもにかかわる事象に興味・関心をもち、より一層保育を理解する。</li> <li>・保育の全体について理解し、実践的技能の基礎を身につける。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	<p>テキストの授業内容に該当する箇所を目を通して、事前に予習し、積極的な態度で授業に臨むことを期待する。</p> <p>授業後は授業内容についての振り返り用紙を記入し、紹介する文献などを読んで、自分なりの子ども観・発達観・保育観を語るができるようになってほしい。</p>								
回	授業計画			授業内容					
1	保育の基本(1)			保育とは何か、子どもの最善の利益と保育					
2	保育の基本(2)			保育の社会的役割と責任、保育所保育指針と幼稚園教育要領					
3	保育における子ども理解			子ども理解、発達のとらえ方、「子ども観」・「発達観」と保育					
4	保育の歴史(1)			日本の保育施設の誕生と発展					
5	保育の歴史(2)			諸外国の保育施設の誕生と発展					
6	保育の制度			日本の保育制度、諸外国の保育制度					
7	保育の特性			環境を通して行う保育、発達過程に応じた保育					
8	保育の内容			ねらいと内容、領域の考え方					
9	保育の方法(1)			保育形態と保育方法、生活と遊びを通じた総合的な保育					
10	保育の方法(2)			幼児期にふさわしい生活、個と集団を生かした保育					
11	保育の計画と実践(1)			保育の計画の意義、保育課程と指導計画					
12	保育の計画と実践(2)			長期指導計画と短期指導計画、指導計画の作成と留意点					
13	保育の実践・評価			省察・評価の意義、保育の評価と改善、保育カンファレンス					
14	保育の現状と課題			家庭との連携、特別な配慮を必要とする子どもへの対応					
15	保育者の専門性			保育の質を高めるための保育者の資質・能力					
テキスト	森上史朗・大豆生田啓友編：『よくわかる保育原理』（ミネルヴァ書房）								
参考文献	厚生労働省編：『保育所保育指針解説書』（フレーベル館） 森上史朗・柏女霊峰編：『保育用語辞典』（ミネルヴァ書房）								

科目名	社会的養護 I		必修・選択	選択 (保資必修)	授業形態	講義	評価の方法	試験	80%
	担当者	佐々木 久仁明	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期		レポート	—
授業のねらいと概要	児童の社会的養護についてその実施体系の基本的な仕組みを知り、また、保育士が社会的養護の中で取るべき倫理観を含む基本的な児童との関わりや支援を理解する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的養護の仕組み、各施設の目的、対象とする児童などを把握する。</li> <li>社会的養護において、児童との適切な関わりと基本的な支援について理解する。</li> <li>社会的養護の歴史、児童の権利擁護の流れが分かる。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設実習に直接関係する科目であり、社会的養護を要する児童に暖かい思いを持つようにする。</li> <li>テキスト、プリント、DVDなどにより、講義を進めるので、各自予習、復習、まとめをしておくこと。カタカナ用語が多いのでその理解に努めること。</li> </ul>								
回	授業計画				授業内容				
1	保育と社会的養護				社会的養護とは何か、保育士と社会的養護				
2	社会的養護における児童観				子どもの権利、基本的ニーズ、発達の保障				
3	子どもと家庭を取り巻く状況				現代社会と家庭、増え続ける児童虐待問題、さまざまな児童虐待とその保護者支援				
4	児童養護の歴史 I				欧米における児童養護の歴史				
5	児童養護の歴史 II				日本における児童養護の歴史				
6	社会的養護の仕組 (その 1)				児童相談所、措置と契約、児童福祉施設、里親制度 補完的・支援的養護、療育的養護、代替的養護、再構築的養護				
7	社会的養護の仕組 (その 2)				愛着形成、施設の小規模化、乳児院、児童養護施設				
8	小規模住居型児童養育事業 里親制度 (家庭養護)				ファミリーホーム、里親の種類 里親要件、里親登録、里親支援				
9	社会的養護の専門職				保育士、児童指導員、児童自立支援専門員、児童生活支援員 母子生活支援員				
10	児童虐待対応の専門職				家庭支援専門相談員、心理療法担当職員、個別対応職員				
11	社会的養護の基本原則				家庭的養護と個別化、発達の保障と自立支援、回復をめざした支援家族との連携、継続的支援とアプローチ、ライフサイクルを見通した支援				
12	施設における養育				入所前後、日常生活支援、自立支援、分園型自活訓練事業				
13	リービングケア、アフターケア				家庭復帰、進学、就職、児童自立生活援助事業 (自立援助ホーム)				
14	障がいのある児童の社会的養護				(旧) 肢体不自由児施設、(旧) 知的障害児施設				
15	情緒・行動に問題のある児童の社会的養護				情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設				
テキスト	新保育士養成講座編纂委員会編：『改訂 2 版新保育士養成講座 第 5 巻社会的養護』 (全国社会福祉協議会) 『社会福祉小六法 2017 年版』(ミネルヴァ書房)								
参考文献	『社会福祉基本用語集』(ミネルヴァ書房)								

科目名	保育の心理学Ⅰ		必修・選択	選択 (保資必修)	授業形態	講義	評価の方法	試験	75%
	担当者	武田 留美	単位数	2	学年・期間	1 年 前 期		レポート	—
授業のねらいと概要	子どもの発達及び保育にかかわる心理学の基礎知識を習得する。乳幼児の発達理解と子ども理解を深め、初期経験の重要性と人との相互的関わりの重要性を学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実践に関わる心理学用語について理解することができる。</li> <li>・ 乳幼児の発達に関する基礎知識を習得する。</li> <li>・ 人との相互的な関わりの重要性を理解し保育の在り方を考える。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定した教科書の範囲を読んでおくこと。</li> <li>・ 保育・子どもに関しての報道をニュース、新聞等で把握しておくこと。</li> </ul>								
回	授業計画	授 業 内 容							
1	保育と心理学	子どもの発達を理解する：発達理論と発達理解							
2		保育実践の評価と心理学：保育実践の評価、子どもの評価							
3		発達観、子ども観と保育観							
4	子どもの発達理解	子どもの発達と環境							
5		感情の発達と自我							
6		身体機能と運動機能の発達							
7		知覚と認知の発達：感覚・知覚の発達、思考の発達、記憶の発達							
8		言葉の発達と社会性：話す、伝える、考える							
9	人との相互の関わりと子どもの発達	基本的信頼感の発達：母子の相互作用、愛着							
10		愛着の広がり：愛着の発達、仲間関係							
11	生涯発達と初期経験の重要性	生涯発達と発達援助：ライフサイクルと漸成、初期経験							
12		胎児期および新生児期の発達：反射と行動、環境と健康・障害							
13		乳幼児期の発達							
14		児童期から青年期の発達							
15		成人期、老年期の発達							
テキスト	長谷部比呂美、日々暁美、山岸道子著：『保育の心理を学ぶ』（ななみ書房）								
参考文献	適宜、提示する。								

科目名	保育内容の指導法 人間関係	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	40%
							レポート	—
担当者	津谷 ゆき子	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期		提出課題	30%
							授業態度・意欲	30%
授業のねらいと概要	保育内容の領域「人間関係」のねらい・内容について学びながら、保育の場における人間関係について理解を深める。 乳幼児期の人とのかかわりの発達と援助について学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育内容「人間関係」のねらい・内容を理解することができる。</li> <li>「人とかかわる力」の基礎作りの重要性を知り、乳幼児理解と援助を考えることができる。</li> <li>乳幼児が豊かな人間関係を培うことができるように、自身の感性や人間性を高める努力をすることができる。</li> </ul>							
準備学習 (予習・復習)	予習：授業内容と関係するテキスト部分を事前に読み学習する。 復習：授業後、テキストに再度目を通し学習内容を記録する。							
回	授業計画	授 業 内 容						
1	オリエンテーション	・保育内容「人間関係」の授業内容と進め方、人間関係の育ちの重要性						
2	領域「人間関係」の理解①	・幼稚園教育要領、保育所保育指針による「人間関係」						
3	領域「人間関係」の理解②	・保育内容「人間関係」の理解の深化と保育の重要性						
4	人とかかわりの発達①	・乳幼児期の人とかかわりの発達と保育者の役割 乳児期						
5	人とかかわりの発達②	・乳幼児期の人とかかわりの発達と保育者の役割 幼児期						
6	人とかかわりの発達③	・児童期以降の人とかかわりの発達と今日的な課題						
7	遊びの発達と人間関係	・遊びの中で育つ人とかかわり						
8	遊びの環境と乳幼児の育ち	・人とかかわりを育てる遊び場の工夫						
9	生活と人間関係	・生活の中で育つ人とかかわり						
10	個と集団と人間関係①	・個と集団の育ちと保育者の援助						
11	個と集団と人間関係②	・多様な乳幼児の理解と保育者の援助						
12	領域「人間関係」と連携	・保育者同士、保護者、地域との連携						
13	人間関係と今日的な課題	・社会の変化と子どものおかれる環境の変化						
14	保育者の役割	・共感と援助、研修						
15	まとめ	・保育者としての成長の喜び、生き甲斐						
テキスト	森上史朗ほか：『最新保育講座8 保育内容人間関係』（ミネルヴァ書房） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・厚生労働省）							
参考文献	『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』							

科目名	保育内容の指導法 言葉	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	
						試験	85%
担当者	蛭田 一美	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期	レポート	—
						提出課題	—
						授業態度・意欲	—
						実技	15%
授業の ねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域「言葉」のねらいや内容、言葉の発達について重点を置きながら実践的な学習をすすめ、豊かな表現者としての保育者のあり方を考える。また、子どもの発達を領域「言葉」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。テキスト、資料レジメ、プリントなどによる学習を中心とするが、必要に応じて、グループワークや発表を行う。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育内容「言葉」のねらい・内容を理解することができる。</li> <li>子どもの言葉の獲得過程に関心を持ち、保育の場で多様な言葉の表現を読み取ることができる。</li> <li>子どもの豊かな言葉を育てるために、保育者として表現力を身につけ、実践することができる。</li> </ul>						
準備学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前にテキストの該当箇所を読んでおくことが望ましい。</li> <li>授業中に生じた疑問等は、質問するなど学習への積極的な取り組みを期待する。</li> </ul>						
回	授業計画	授 業 内 容					
1	オリエンテーション	子どもの言葉と保育者のありかた					
2	保育の基本と領域「言葉」	乳幼児の発達と保育					
3	乳幼児の言葉	保育者との関係性					
4	言葉の発達の理解	乳幼児期のコミュニケーション					
5	言葉の特徴と発達	言葉の獲得の経緯					
6	領域「言葉」と保育方法Ⅰ	領域「言葉」のねらいと保育者の役割					
7	保育の基本と領域「言葉」	幼稚園教育要領・保育所保育指針のねらいと内容の理解					
8	領域「言葉」保育の実際Ⅰ	乳幼児が安心して表現するプロセス					
9	領域「言葉」保育の実際Ⅱ	言葉で表現する子どもを育てるための保育					
10	保育者の役割と援助Ⅰ	言語環境としての保育者とは					
11	保育者の役割と援助Ⅱ	経験の共有・表現・言語環境としての保育者を考える					
12	「言葉」と実践上の留意点	保育の展開の中から～言葉遊び・文字指導・表現活動					
13	「言葉」と保育の総合性	表現活動のワークショップ					
14	文化財との出会い	表現活動としての「素話」					
15	まとめ						
テキスト	柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編：『最新保育講座 10 保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房）						
参考文献	『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』						

科目名	幼児指導法	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	—
							レポート	50%
担当者	蛭田 一美	単位数	1	学年・期間	1 前期		提出課題	30%
							授業態度・意欲	—
							実技	20%
授業のねらいと概要	領域「表現」のねらい、内容についての考え方を根底におき、実践的な学習をすすめ、多様な遊びの直接体験の意義を考える。資料レジメ、プリントなどによる実践的な学習を中心とするが、必要に応じて、ノートを取りグループワークや発表を行う。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの直接体験を行い、楽しさや充実感を味わい、遊びの意味を理解できる。</li> <li>・幼児指導法を多面的に学ぶことにより、実際に保育を展開する技能の基礎を培う。</li> <li>・グループワークの取り組みを通し、保育者として積極的な姿勢や協力態度を養う。</li> <li>・情報機器の活用により、教育効果について関心を持つことができる。</li> </ul>							
準備学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接体験したことを保育の学びとして重ね、いろいろな授業を関連付けて思考することが望ましい。</li> <li>・保育の実際の場における実践力を高めるために自分なりの課題を持つ。</li> </ul>							
回	授業計画	授業内容						
1	オリエンテーション	幼児指導法について						
2	保育における遊びとはⅠ	遊びの多様性と魅力						
3	保育における遊びとはⅡ	遊びとは何か						
4	絵本について	絵本の読み聞かせについて						
5	紙芝居について	紙芝居の歴史と読み方						
6	造形的な遊びⅠ	新聞紙の素材を使った遊び						
7	造形的な遊びⅡ	土・粘土の素材						
8	遊びの意味	直接体験の振り返り						
9	音楽的な遊びⅠ	描画材と音楽を組み合わせた遊び						
10	音楽的な遊びⅡ	うたあそび・わらべうた・手遊び						
11	ITリテラシーと保育Ⅰ	情報機器の位置づけについて認識を深める						
12	ITリテラシーと保育Ⅱ	情報機器を活用し保育のニーズを考える						
13	伝承遊びの展開	伝承あそびの意味づけ						
14	伝承遊びの展開	独楽・あやとりの実技を行う						
15	授業のまとめ	授業の振り返りとまとめ						
テキスト	平田智久・小林紀子・砂上史子編：『最新保育講座 11 保育内容表現』（ミネルヴァ書房）							
参考文献	『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』							



科目名	乳児保育 I	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	—
							レポート	80%
担当者	鈴木 万紀子	単位数	2	学年・期間	1 年 前 期		提出課題	—
							授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要		乳児期は人格の基礎をつくる時期であることを理解し、乳児を保育するために必要な知識と実践を学び、保育に携わることの意味深さを知る。						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児に関心を持ち、発達過程を理解し乳児保育に必要な知識を習得することができる。</li> <li>・乳児の育ちを支える育児観を持つことができる。</li> </ul>						
準備学習 (予習・復習)		授業時に指示したテキストを次回までに目を通し、理解できない部分を確認しておくこと。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	保育所保育について		保育所保育の理念と保育の変遷、乳児の生活習慣について					
2	乳児の発達過程と生活の援助の仕方について		0～1歳3カ月未満の発達について知る					
3	〃		0～1歳3カ月未満の生活の援助の仕方や安全への配慮を知る					
4	〃		1歳3カ月～2歳未満の発達について知る					
5	〃		1歳3カ月～2歳未満の生活の援助の仕方や安全への配慮を知る					
6	〃		2歳児の発達や生活の援助の仕方や安全への配慮を知る					
7	環境による保育		環境が及ぼすことの意味深さについて					
8	乳児と育児文化		育児文化について					
9	保育園文化		乳児の育ちの捉え方					
10	乳児の生活		生活を通して乳児を育てるもの					
11	〃		〃					
12	乳児の日常の計画と評価		乳児の姿の捉え方から指導計画、評価					
13	〃		実際の指導計画を見ながら考察する					
14	乳児と共に暮らす大人		家庭との連携と乳児の最善の利益を考えての関わりについて					
15	乳児と触れ合う上での知識の確認		保育所で乳児と共に生活するときの知識・技術・援助の確認					
テキスト		社会福祉法人あすみ福祉会：『見る・考える・創り出す乳児保育』（萌文書林）						
参考文献		『保育所保育指針解説書』						

科目名	障がい児保育				試験	50%
	必修・選択	選択 (保資必修)	授業形態	(演習)		レポート
担当者	永井 博敏				学年・期間	1 年 後 期
						評価の方法
授業のねらいと概要	○障がいの種類や特徴など、障がいに関する基本的な知識を得ることから始め、障がい児保育の考え方や保育者の援助の在り方に関する基本的事項を取り上げる。 ○映像資料を使って障がい児保育の事例に触れ、実践的な学びを取り入れる。					
	到達目標	○障がいの種類や特徴、障がい児保育の在り方等に関する基本的な知識を理解する。 ○映像資料から幼児の育ちや保育者の工夫を読み取り、話し合いで理解を深める。 ○障がい児保育について得たことを的確にレポートに記述・表現することができる。 ○障がい児・者に関することがらに関心を持ち、進んで学ぼうとする意欲を持つ。				
準備学習 (予習・復習)	授業では将来の保育者に必要な基本的な知識や心構えを学ぶに過ぎないので、授業前後の時間を活用して、関連する多くの情報に触れ、主体的に授業内容の拡大・深化に努めることが目標達成には不可欠である。また、“共生社会”に生きる大人として障がい理解に努め、学外においても積極的に障がい児者と触れ合う行動に努めてほしい。					
回	授業計画	授 業 内 容				
1	オリエンテーション	○授業のねらいと学び方に関する説明、レディネス調査 映像資料の視聴を通して障がい児理解を深める				
2	「障がい」とは？ 障がい児保育の変遷と現状	○「障がいとは？」 各種法令による規定 日本における障がい児教育・保育の歴史の変遷と現状				
3	障がい児教育の基本	○障がい児教育の理念 障がい児保育の基本と方針（教育要領と保育指針）				
4	肢体不自由児の障がい特性と保育の在り方	○肢体不自由、特に脳性まひの障がい特性や療育と子どもの発達を促す保育者の援助の在り方				
5	知的障がい児の障がい特性と保育の在り方	○知的障がい児の障がい特性とその発達を促す保育者の援助の在り方。特にダウン症の障がい特性について。				
6	視覚・聴覚障がい児の理解と発達の援助	○視覚障がい・聴覚障がいの特徴や療育の実際とその発達を促すための保育者の援助の在り方				
7	自閉症スペクトラムの理解と保育者の援助	○発達障害、特に自閉症スペクトラムの発達特性と当該幼児や他の幼児への保育者の援助の在り方				
8	ADHD・LDの理解と保育者の援助－1	○発達障害、特に注意欠陥多動性障がい、学習障がいの障がい特性とその発達を促す保育者の援助の在り方				
9	演習とグループカンファレンス ADHD特性のリフレーミング	○発達障害に対応する保育者の心構え テーマ「ADHDの困り感を別の視点から“良さ”と見ると？」				
10	障がい児保育の実際と保育者の援助の在り方－1	○映像資料を使って次の観点から保育の在り方を学び取り、場面カンファレンスや観点別レポート作成などを行う				
11	障がい児保育の実際と保育者の援助の在り方－2	・子どもの自ら育つ力が働かだすために必要な経験とは？ ・受容と共感に裏付けられた幼児との信頼関係 ・友だちとのかかわり合いの中で共に育つこと				
12	障がい児保育の実際と保育者の援助の在り方－3	・家庭との連携と保護者支援				
13	個別の指導計画の意義と作成	○個別指導計画の意義と作成手順 演習) 映像資料に基づく個別指導計画の作成				
14	適正就学と就学指導 家庭・専門機関との連携	○小学校への適正就学と就学事務の実際 家庭や専門機関との連携、秋田県版「就学のために」等の活用				
15	障がい児保育のまとめ これからの課題	○援助の在り方や保育者の基本姿勢など今後、保育に携わるための心構えや課題についてのまとめ				
テキスト	藤永 保監修・阿部五月/大熊満穂/小泉左江子/田仲規子/村田カズ：『障害児保育』（萌文書林）					
参考文献	その都度、書籍・資料を紹介する。					

2 年 次

科目名	キリスト教人間学Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	
						試験	30%
担当者	門戸 美智	単位数	2	学年・期間	2 年 通 年	レポート	—
						提出課題	30%
授業のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新約聖書を通してイエス・キリストの生涯と教えを学び自分の生き方に反映させる。</li> <li>・神からの恵みに気づき、自らの弱さも知り、人類と社会の平和に尽くす。</li> <li>・保育者として一人ひとりを愛する生き方を実践する。</li> </ul>					授業態度・意欲	20%
						聖園アワー・感想	20%
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の建学の精神を理解し、保育者としてキリストの生き方を学ぶ。</li> <li>・聖書の学びを実践的に捉え、自らの生き方をキリスト教的価値観に近づける。</li> <li>・保育者として正しい倫理観を構築する。</li> </ul>						
準備学習(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新約聖書をシラバスに従って予習、復習をし、実践的生き方の中で考えてみる。</li> <li>・学生時代に感じる喜び、悩み、苦しみを真摯に捉え、神から与えられた恵み、あるいは試練を祈りのうち受け止め、感謝と恵みを願う習慣をつける。</li> </ul>						
回	授業計画	授業内容					
1	オリエンテーション	新約聖書と本学の建学の精神 学生便覧					
2	荒野での試み	誘惑と戦うイエス マタイ4：1～11					
3	イエスの告げた福音	喜びの知らせ マルコ1：1					
4	イエスの弟子	弟子の選び マタイ4：18～22					
5	イエスの弟子	弟子たちの使命 マルコ16：14 ルカ9：1～9					
6	イエスの教え	山上の垂訓 マタイ5：1～10					
7	イエスの教え	敵を愛せよ ルカ6：27～36					
8	イエスの教え	人を裁くな ルカ6：37～44					
9	み心について	ミサについて知る					
10	み心のミサと講演	み心のミサと講演(参加・感想文)					
11	イエスのたとえ話	よいサマリア人 ルカ10：25～37					
12	イエスのたとえ話	金持ちとラザロ ルカ16：19～33					
13	イエスのたとえ話	種まきのたとえ ルカ8：4～15					
14	イエスのたとえ話	ぶどう園の労働者 マタイ20：1～16					
15	祈りについて	主の祈り					
16	愛とゆるし	見失った羊 ルカ15：4～7					
17	愛とゆるし	放蕩息子 ルカ15：11～32					
18	イエスの奇跡	重い皮膚病患者のいやし マルコ1：40～45					
19	イエスの奇跡	エリコの盲人いやされる マルコ10：46～52					
20	イエスの奇跡	ヤイロの娘と出血病の女 マルコ5：21～43					
21	待降節	待降節を知る					
22	クリスマスミサ	クリスマスミサ(参加・感想文)					
23	最後の晩餐	ユダの裏切り マタイ26：14～16					
24	最後の晩餐	イエス弟子たちの足を洗う ヨハネ13：1～20					
25	最後の晩餐	聖体の制定 マタイ26：～					
26	イエスの苦しみと死	ゲッセマネの祈り・逮捕 マタイ26：36～46					
27	イエスの苦しみと死	ペトロの否み マタイ26：30～35					
28	イエスの苦しみと死	十字架の刑 犯罪人の赦し 十字架上のイエスの言葉ルカ23章					
29	復活	エマオの途上での出現 ルカ24：13から35					
30	教会の誕生	教会の誕生 使徒言行録2：42～47 パウロの回心					
テキスト	フランシスコ会聖書研究所訳注：『新約聖書』(サンパウロ) ガエタノ・コンプリ著：『こころにひかりを』(ドン・ボスコ社)						
参考文献	百瀬文晃著：『キリストを知るために』(サンパウロ) 百瀬文晃著：『キリスト教の輪郭』(女子パウロ会)						

科目名	日本語の表現Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	40%
			レポート	—	提出課題	50%	授業態度・意欲	10%	
担当者	大原 かおり		単位数	1	学年・期間	2 年 前 期			
授業のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本語の表現Ⅰ」を発展させた学習活動を通して、社会人としてふさわしい国語力のさらなる向上を図る。</li> <li>・プリント資料を用いた講義・演習、個人やグループでの創作活動をする。</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の特質について理解を深め、場に応じた適切な言語表現ができる。</li> <li>・学習活動を通じて、思考力や判断力、表現力を向上させることができる。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〈国語力トレーニング〉では、事前に問題を解いて授業に臨むこと。</li> <li>・演習後・添削後の課題には必ず目を通し、正しい日本語表現の習得に努めること。</li> </ul>								
回	授業計画			授 業 内 容					
1	オリエンテーション			授業内容の説明					
2	国語力トレーニング 1			正しい日本語					
3	〃	2	敬語表現(1)						
4	〃	3	敬語表現(2)						
5	〃	4	問題演習・解説						
6	〃	5	〃						
7	作文演習			就職作文作成の注意事項					
8	絵本モンタージュ 基礎(1)			絵本モンタージュ論に基づき、「お弁当絵本」を制作する。					
9	〃	(2)	〃						
10	絵本発表会			作品の相互評価					
11	絵本モンタージュ 応用(1)			「文字なし絵本」にテキストをつける					
12	〃	(2)	〃						
13	〃	(3)	〃						
14	発表会(1)			制作した作品を読み聞かせする。					
15	〃	(2)・まとめ							
テキスト	自作プリントを使用								
参考文献	「国語便覧・要覧」(高等学校で使用したもの)								

科目名	音楽の理論と合奏Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	—
		担当者	東海林 美代子	単位数	1		学年・期間	2 年 後 期
授業のねらいと概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの音楽表現活動を支えるために必要な音楽の基礎理論を学び、理解を深める。</li> <li>子どもが表現しやすい簡易楽器の基礎的奏法を習得し、全体およびグループでの合奏を通して表現する喜びを味わう</li> </ul>						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>コードネームを理解し、コードを使用して旋律譜に伴奏をつけることができる。</li> <li>簡易楽器の奏法を習得し、合奏を楽しむことができる。</li> </ul>						
準備学習(予習・復習)		コードネームについては、ノートを活用して十分に復習と練習をすること。						
回	授業計画	授業内容						
1	授業内容について 和音とコードネーム(1)	授業内容・進め方について説明する コードネームとは						
2	和音とコードネーム(2)	コードの種類						
3	和音とコードネーム(3)	いろいろなコード ハ長調の主要三和音						
4	和音とコードネーム(4)	主要三和音(ト長調・ニ長調・ヘ長調)						
5	和音とコードネーム(5)	旋律譜にコードを付けて演奏する 「とんぼのめがね」「ピクニック」等						
6	和音とコードネーム(6)	演習テスト						
7	小曲の合奏Ⅰ	トーンチャイム・ミュージックベルを中心とした合奏 クリスマスソングを演奏する						
8	小曲の合奏Ⅰ	トーンチャイム・ミュージックベルを中心とした合奏 クリスマスソングを演奏する						
9	小曲の合奏Ⅱ	器楽合奏(マリンバ) 「チョップスティックス」						
10	小曲の合奏Ⅱ	器楽合奏(マリンバ・ビブラフォン・スネアドラム等) 「わたしのこころ」						
11	小曲の合奏Ⅱ	器楽合奏(マリンバ・ビブラフォン・スネアドラム等) 「わたしのこころ」						
12	小曲の合奏Ⅱ	器楽合奏(マリンバ・ビブラフォン・スネアドラム等) 「わたしのこころ」						
13	小曲の合奏Ⅱ	器楽合奏 「カスタネット四重奏」						
14	アンサンブルコンテストに向けて	アンサンブルコンテストに向けて演奏曲に取り組む						
15	アンサンブルコンテストに向けて	アンサンブルコンテストに向けて演奏曲に取り組む						
テキスト		なし(必要に応じてプリントを配布します) ※五線ノートおよび鍵盤ハーモニカ唄口を各自準備すること						
参考文献		『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)						

科目名	声楽Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	30%
	担当者	櫻庭 優佳	単位数	1	学年・期間	2 年 通 年		レポート	－
授業のねらいと概要	子どもたちの音楽活動を適切に援助し、音楽の喜びや楽しさを伝えることのできる保育者としての歌唱力を習得する。また、自らの音楽的教養を深める。「子どものうた」を中心とした総合的な音楽表現等の発表を通して歌唱の力を高める。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どものうた」を中心とした独唱や少人数アンサンブル等の歌唱ができる。</li> <li>・子どもの心に響く歌唱とは何か、向上心をもって音楽活動に取り組むことができる。</li> <li>・子どもの感性に働きかける、美しい発声や美しい日本語の発音ができる。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	より豊かな声で歌唱することができるよう、意欲的な姿勢で取り組むこと。授業で学習する曲について、毎回譜読みをして臨み、授業後には必ず復習をすること。学習した曲の音程やリズム等について不安のある場合には、その都度必ず質問をし、練習に生かすこと。								
回	授業計画				授業内容				
1	子どもの歌の発表(1)①選曲				8人程度のグループ毎に子どもの歌に取り組み、音楽表現活動の実践を考え、発表する				
2	" ②譜読み、練習								
3	" ③グループ練習								
4	" ④グループ練習								
5	" ⑤発表の準備								
6	" ⑥発表の準備								
7	" ⑦発表								
8	み心のミサに向けて				ミサ曲と聖歌を歌う				
9	子どもの歌の発表(2)①譜読み				選択した曲について詩の解釈や音楽内容の理解を深め、独唱を含む声楽アンサンブル形式で発表する				
10	" ②作品分析								
11	" ③詩の解釈								
12	" ④グループ練習								
13	" ⑤グループ練習								
14	" ⑥発表								
15	合唱を楽しむ(1)①自由曲選曲				アンサンブルコンテストに向けて自由曲を選曲し、クラス合唱に取り組む				
16	" ②自由曲の音取り								
17	" ③パート練習				アンサンブルコンテストの課題曲に取り組む				
18	" ④合唱練習								
19	" ⑤課題曲の音取り								
20	" ⑥パート練習								
21	" ⑦合唱練習								
22	クリスマス・ミサの発表①選曲				子どもと楽しめるクリスマス・ソングに取り組む				
23	" ②グループ練習								
24	" ③発表								
25	クリスマス・ミサに向けて				ミサ曲と聖歌を歌う				
26	合唱を楽しむ(2)①合唱練習				アンサンブルコンテストに向けて、クラス合唱を仕上げる				
27	" ②合唱練習								
28	" ③合唱練習								
29	" ④合唱練習								
30	「声楽」のまとめ				2年間の授業の成果として、クラス合唱を演奏・発表する				
テキスト	聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学) 『幼児のための音楽教育』(教育芸術社) ※その他 随時プリント配布。								
参考文献	『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版) ※上記(器楽Ⅰのテキスト)に関しては、必要な際に持ってくるよう指示します。								

科目名	器楽Ⅱ(ピアノ)	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	50%
							レポート	—
担当者	東海林 美代子 他 8 名	単位数	1	学年・期間	2 年 通 年		提出課題	—
							授業態度・意欲	50%
授業のねらいと概要	幼児教育者として子どもの表現活動を支えるピアノの基礎的な演奏技術を習得し、表現力を養う。また、子どもの歌の弾き歌いが表情豊かにできるようにする。授業は個人の進度や能力に応じたレッスン形式で行う。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育者として必要なピアノの演奏技術を習得する。(バイエル終了程度以上)</li> <li>・音楽に対する感性を磨き、表現力を高める。</li> <li>・子どもの歌の弾き歌いが表情豊かにできる。</li> </ul>							
準備学習(予習・復習)	毎回課題を十分に練習し授業に臨むこと。練習については毎日行うことが望ましい。							
回	授業計画			授 業 内 容				
1	ピアノレッスン			1. 個人の進度・能力に応じた練習曲と楽曲を課し、レッスン形式で行う中で(1時間に5名程度)、演奏及び練習のポイントについて、奏法や運指法等具体的に指導する				
2				2. ピアノ経験者には、グループレッスンにより、より高い音楽表現のできる奏法を習得させる(1時間に4名程度)				
3				※共通テキスト終了後はブルグミュラー「18の練習曲」ギロック				
4				「こどものためのアルバム」等を使用する				
5				3. 弾き歌い				
6				・弾き歌い曲のレパートリーを増やす				
7				・弾きながら歌うという経験を多く積み重ねることで、より実践的な演奏技術を高めるようにする				
8				(例：ドレミのうた、犬のおまわりさん、大きな古時計等)				
9								
10								
11								
12								
13								
14	前期実技試験(弾き歌い)			弾き歌いの課題を3曲以上練習し、1曲を担当者と話し合って選曲し、演奏する				
15								
16								
17								
18								
19								
20	就職に向けて			演奏力を高め、より豊かな音楽表現ができるように、様々な楽曲に取り組む				
21				(例：バイエル練習曲第104番、バラード(ブルグミュラー)、森の妖精(ギロック)等)				
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30	↓ 後期実技試験			自由曲を担当者と話し合って選曲し、1曲を演奏する				
テキスト	東京福祉保育専門学校編：『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) ※上記テキスト終了後は個々の進度・能力に応じたものを使用する							
参考文献	『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)							



科目名	幼児造形Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	—
							レポート	—
担当者	小笠原 京子	単位数	1	学年・期間	2 年 後 期	評価の方法	提出課題	50%
							授業態度・意欲	50%
授業のねらいと概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>造形表現活動を通して、自らの感性を高め、豊かな表現力と技術を習得し、幼児期の造形活動をとおして育てたいものや保育者の役割、環境構成など具体的な展開の方法を学ぶことをねらいとしている。</li> <li>身近にある自然材、紙、ひも、紙粘土などのさまざまな材料を体験したり、表現方法を工夫したりしながら、平面や立体作品を制作する活動が中心となる。</li> </ul>						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然やものの色や形、感触などから、表現の自由な発想、構想をもつことができる。</li> <li>造形材料・技法・制作過程を理解し、自分なりのイメージを持ちながら制作することができる。</li> <li>子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開などについて考え、応用していく意欲を持つことができる。</li> </ul>						
準備学習(予習・復習)		事前学習として、参考資料や本を用いそれぞれの題材について調べることで、様々なアイデアにつながるよう努めて欲しい。事後学習として、制作の補充をすることや幼稚園児の実際の作品を見たり、制作したものを実習等において活用したりして生かすことを心がけて欲しい。						
回	授業計画		授業内容					
1	ガイダンス		授業計画 進め方についての確認をする。					
2	表現をとおして育てたいもの 表現を育む保育者の役割		こどもの表現活動の理解と支援のありかたをVTRを視聴しながら理解する。					
3	指人形の制作		ボール紙、各種自然材、毛糸などを使って、子どもとともに作れる指人形を制作する。自己紹介などに役立てる。					
4	ひもで動く登り凧		紙、たこ糸などを用いて、のぼる凧(さまざまな形)を制作する。					
5	お面の制作Ⅰ		平面から半立体の動物のお面をつくる。					
6	お面の制作Ⅱ		人間の顔のお面の基礎を理解しながら制作する。					
7	お面の制作Ⅲ		基礎を応用し、紙や紙粘土を土台とし、その他の材料を効果的に併用しながら制作する。また発表会などを意識し実際使えるようなものにする。					
8	季節感を生かした環境構成Ⅰ		壁面や空間を想定した保育環境構成のための制作					
9	季節感を生かした環境構成Ⅱ		つるす、つなぐ、置くなどの条件を考える。 リースづくり					
10	季節感を表すカレンダー制作Ⅰ		スrupattaring、ブラッシング、フロッタージュ、貼り絵、にじみなど、さまざまな技法を使って、季節感あるカレンダーを制作する。					
11	カレンダー制作Ⅱ							
12	カレンダー制作Ⅲ							
13	郷土の伝統工芸の理解		川連漆器についての歴史を知り、製作方法について知る。					
14	子どもの遊びと造形表現		いろいろな素材と遊びの展開 紙コップや新聞紙などを活用した遊びの体験をとおして、子どもと一体になって楽しめる造形活動を考える。					
15	まとめと反省							
テキスト								
参考文献		槇 英子著：『保育をひらく造形表現』（萌文書林） 辻 泰秀著：『幼児造形の研究－保育内容「造形表現」』（萌文書林）						

科目名	幼児造形Ⅲ		必修・選択	選 択	授業形態	(演 習)	評価の方法	試験	—
	担当者	小笠原 京子	単位数	1	学年・期間	2 年 前 期		レポート	—
授業のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者としての造形表現力を豊かにするとともに、幼児の発達と表現の意味を理解し、子どもと一体になって楽しめる造形活動を模索したり、環境構成を工夫したりできる力を身につけることをねらいとしている。</li> <li>・幼児の表現活動と結びつく実技を中心とした授業となる。</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形活動における子どもの心身の発達にふれ、発達段階に応じた素材や表現方法を考えることができる。</li> <li>・材料、用具について学び、技能を高める。</li> <li>・季節に応じた環境構成について学び、制作し、創造性や造形表現力を高める。</li> </ul>								
準備学習(予習・復習)	既習した内容や参考資料と関連させ、幼児の表現における効果的な材料の選択や応用力を身につけることを期待する。また、実習と絡み合わせながら、現場で生かせるよう、主体的に活動してほしい。								
回	授業計画			授 業 内 容					
1	ガイダンス			授業計画、進め方について確認する。					
2	幼児の育ちと表現			幼児の発達段階に応じた造形表現活動の理解と支援の仕方(VTR) 幼児の発達と表現の理解と表現にかかわる指導と教材について学ぶ。					
3	万華鏡の制作Ⅰ			万華鏡のしくみについて理解する。 形のおもしろさ、配色の工夫に配慮しながら、制作する。 色セロハンと黒の色画用紙の組み合わせ、連続模様のリズムを生かしながら制作する。					
4	万華鏡の制作Ⅱ								
5	万華鏡の制作Ⅲ								
6	万華鏡の制作Ⅳ								
7	万華鏡の制作Ⅴ								
8	万華鏡の制作Ⅵ								
9	身近な素材を使って、つくって遊ぶ			揺れる、動くなどのしくみを理解して、いろいろな素材から選択して制作する。 (紙、割り箸、輪ゴム、テープ等) バランス、動きを考える。 <色画用紙、紙テープ、自然材、毛糸、竹、籐、紙粘土、塩ビ板など素材を生かしたつるすものをつくる。>					
10	身近な素材を使って、つくって飾る								
11	子どもの絵を見る			子どもの絵を鑑賞し、発達に応じたこどもの表現についての理解に深める。					
12	造形環境構成Ⅰ			壁面構成、立体、オブジェなど、造形的な環境構成について考え、季節感も取り入れたものをグループで制作する。					
13	造形環境構成Ⅱ								
14	造形環境構成Ⅲ								
15	年間授業のまとめと反省			自由テーマで制作したものを互いに鑑賞する。					
テキスト									
参考文献		槇 英子著：『保育をひらく造形表現』(萌文書林) 辻 泰秀著：『幼児造形の研究－保育内容「造形表現」』(萌文書林)							

科目名	幼児体育	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	—
							レポート	—
担当者	内藤 裕子	単位数	2	学年・期間	2 年 前 期		提出課題	20%
							授業態度・意欲	80%
授業のねらいと概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児に適したあそびを学び、その重要性を理解する。</li> <li>・伝承あそびや集団あそびを通して、コミュニケーション能力をみがく。</li> </ul>						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の身体的特徴や発達を理解し、それに基づいたあそびや運動方法を習得する。</li> <li>・運動あそびを経験し、その重要性や指導法を習得する。</li> <li>・運動あそびや集団あそびを通して、コミュニケーション能力や積極性を身につける。</li> </ul>						
準備学習 (予習・復習)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディア等を参考に手あそびや体あそびについての見知を深めておく。</li> <li>・授業で学んだ題材を進化させ、その指導方法やバリエーションについて考察すること。</li> </ul>						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		授業内容の説明					
2	運動あそびの理論と実際1		運動あそびについての解説					
3	運動あそびの理論と実際2		けんだま・おはじきについての解説					
4	運動あそびの理論と実際3		鬼ごっこについての解説					
5	運動あそびの理論と実際4		あやとり・ゴム跳びなど					
6	ダンスの理論と実際1		幼児むけのダンスの実際					
7	ダンスの理論と実際2		ダンスステップの実際					
8	創作ダンス1		幼児むけのダンスを創作する					
9	創作ダンス2		選曲・表現の仕方・ステップ等の技術的な面を把握する					
10	幼児むけのダンス発表		行う側・観る側の留意点などについて考える					
11	伝承あそび1		手あそび・歌あそび・言葉あそびなどを中心に行う					
12	伝承あそび2		”					
13	集団あそび		運動あそび					
14	集団あそび		季節のあそびを楽しむ					
15	まとめ		質疑応答					
テキスト		なし						
参考文献		なし						

科目名	運動表現	必修・選択	選 択	授業形態	(演 習)	評価の方法	
						試験	—
担当者	内藤 裕子	単位数	1	学年・期間	2 年 期 前 期	レポート	—
						提出課題	20%
						授業態度・意欲	80%
授業のねらいと概要	自らの感性・経験を生かした「表現する力」を養い、創作活動を通じて、イメージと表現の関連性を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体のいろいろな動きを習得し、表現する技術を高める。</li> <li>・内面にあるものを表現し、形に表す楽しさを知ることがを望む。</li> <li>・集団活動を通してコミュニケーション能力や積極性を身につける。</li> </ul>						
準備学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しなやかな動きを目指し、日々の体力づくりに励み授業に臨むこと。</li> <li>・授業で学んだ動作を生かし、創作活動につながる方法を考える。</li> </ul>						
回	授業計画	授 業 内 容					
1	オリエンテーション	授業内容の説明					
2	仲間作りのための運動遊び	集団あそび・音楽に合わせた踊りを楽しむ					
3	体力作り1	バスケットボール					
4	体力作り2	バレーボール					
5	体力作り3	卓球・バドミントン					
6	リズムダンス1	ダンステクニックを知る					
7	リズムダンス2	子どものためのダンス					
8	リズムダンス3	ダンスと美の関係					
9	創作ダンス1	創作ダンスの意義の学習					
10	創作ダンス2	ダンスのステップについて					
11	創作ダンス3	「踊跡」と動きの関係					
12	創作ダンス4	作品の確認					
13	創作ダンス作品発表	感想・反省などの意見交換					
14	作品発表	質疑応答					
15	まとめ	まとめ					
テキスト	なし						
参考文献	なし						

科目名	児童文学	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	評価の方法	
						試験	—
						レポート	40%
						提出課題	50%
担当者	大原 かおり	単位数	2	学年・期間	2 年 前 期	授業態度・意欲	10%
授業のねらいと概要	日本の児童文学の歴史を学び、時代によって変容する児童文学について理解する。 ○講義・演習、グループ研究による学習活動を行う。						
到達目標	○日本の児童文学の歴史を学び、児童文学作品の時代性について理解する。 ○児童文学作品について、その特徴を検証することができる。 ○グループによる調査・研究を通して知見を広げることができる。						
準備学習 (予習・復習)	○事前に指定された作品を読んで授業に臨むこと。 ○講義や演習内容をノートにまとめ、活用できるノート作りに努めること。						
回	授業計画	授 業 内 容					
1	オリエンテーション	児童文学とは・絵本de考察					
2	児童文学の歴史 1	日本の児童文学の流れと背景 1 ○江戸以前と明治					
3	児童文学の歴史 2	日本の児童文学の流れと背景 2 ○大正 1					
4	児童文学の歴史 3	日本の児童文学の流れと背景 3 ○大正 2					
5	児童文学の歴史 4	日本の児童文学の流れと背景 4 ○昭和(戦前・戦中)					
6	児童文学の歴史 5	日本の児童文学の流れと背景 5 ○昭和(戦後)					
7	児童文学の歴史 6	日本の児童文学の流れと背景 6 ○現代					
8	昔話の世界	昔話の構造					
9	海外の作品	翻訳について					
10	美術館見学	「スズキコージ ヤッホーホイホー展」(秋田近代美術館) 見学					
11	作品・作家・テーマ研究	作品・作家・テーマ研究について					
12	グループ研究 1	グループを作り、テーマを決め、調べたこと・考えたこと・話し合ったことについて、整理してまとめ、発表をする。					
13	グループ研究 2						
14	グループ研究 3						
15	グループ研究発表会						
テキスト	なし						
参考文献							

科目名	数 論	必修・選択	選択必修	授業形態	講 義	評価の方法	
						試験	30%
担当者	小林 真人	単位数	2	学年・期間	2 年 期 前 期	レポート	40%
						提出課題	—
						授業態度・意欲	30%
授業のねらいと概要		解説、受講生による手作業、受講生グループによる発表を通して、数や図形を身近に感じてもらう。					
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な出来事に数理関係が働いていることを理解し、複数の具体例をあげて説明できる。</li> <li>・数や図形に関する新しい見方に関心を持ち、そのいくつかを説明できる。</li> </ul>					
準備学習 (予習・復習)		毎授業ごとにミニットペーパーを提出して授業の振り返りをする。					
回	授業計画			授 業 内 容			
1	平均とつりあい	1	2回の授業を通して、平均とつりあいの関係を実感する。3つの重りのつり合い位置をさがす、天秤、シーソー、てこの原理、など				
2	平均とつりあい	2					
3	ヒストグラム		ヒストグラムという統計グラフを紹介する。どんな傾向が読み取れるかを考える				
4	ヒストグラムと平均		ヒストグラムから平均を読み取る技を紹介し、グループで実行する				
5	サインウェーブ	1	2回の授業を通して、サインウェーブという波のような繰り返し図形を紹介する。作図、どんなところに見られるか、など				
6	サインウェーブ	2					
7	暗号をつくろう	1	2回の授業を通して、文字を0と1の羅列で表す方法を体験し、どんな工夫が必要かを理解する。文字コード、サイズの節約法、誤解を避ける方法、ハフマンのアイデア、など				
8	暗号をつくろう	2					
9	分数の星		分数を星形の図形であらわすことを考える。「作図」、図による足し算、分数の有限性と、無限性を持つ数など				
10	線画のひみつ	1	2回の授業を通して、点と線で作られた図形で成り立つ不思議な関係を見出し、しくみを解明する。グラフ、ノード、リンク、フェイス、木グラフ、オイラーの式、など				
11	線画のひみつ	2					
12	ぬりえ	1	2回の授業を通して、どんな塗り絵もごく少ない色で塗り分けできることを体験して、しくみを解明する。線図形に写し取る、6色で塗り分ける、など				
13	ぬりえ	2					
14	ウェーブのブレンド	1	2回の授業を通して、複数のサインウェーブを重ねると複雑な波型ができることを体験する。ウェーブのブレンド、作図、花模様を作る、など				
15	ウェーブのブレンド	2					
テキスト		なし					
参考文献							

科目名	生活科の研究		必修・選択	授業形態	講義	評価の方法	試験	40%
	選択必修						レポート・作品	30%
担当者	永井 博敏		単位数	2	学年・期間	2 年期 前 期	授業態度・意欲	20%
							体験活動の取組	10%
授業のねらいと概要	○幼稚園・保育所における保育との連続性および低学年児童の発達特性を重視する観点から、生活科の意義や目的、内容、指導計画等について理解を深めることを主たるねらいとする。 ○生活科を理解するために探索活動・栽培活動・表現活動など実践的な内容の授業構成とする。							
到達目標	○幼児期の発達特性の観点から生活科の意義や保育との関連性を理解することができる。 ○生活科の指導内容を理解すると共に、展開事例を参考に自ら進んで実践活動を体験する。 ○探究活動等を通じて得た情報をもとにイラストやグラフ等を使って表現することができる。 ○根気よく栽培や製作、探索活動に取り組み、やり遂げた感動を味わうことができる。							
準備学習(予習・復習)	探索・制作・表現・栽培など生活科の特徴的な学習活動を受講生が自ら体験するアクティブな学習活動を随所に挟んで展開する。その場合は授業以外の事前・事後の活動が不可欠である。あらかじめ課題発見や課題設定のために調査をするなど事前の学習をし、事後には検証的な活動を追加して課題解決を果たすなど、主体的に学習に取り組むことが望まれる。							
回	授業計画			授業内容				
1	オリエンテーション 小学校教育課程の特徴	栽培活動…「プランターで野菜を栽培しよう」 ○土づくりから、種いも植え、芽欠き、増し土、収穫までの世話をする。	○ 科目の全体計画と修得を期待する能力や態度についての説明 ○ 小学校教育課程の変遷及び現況					「プランターで野菜栽培をしよう」…一人一株、二名編成で「ジャガイモの栽培」を行う。 「植え付け」、「芽欠き・追肥」、「収穫」の計三回の作業を授業時に実施し、ジャガイモ栽培の手順や実施方法のあらましを体験的に理解する実践活動を行う。(日常の世話は時間外活動)
2	教育課程の変遷と生活科の誕生		○ 小学校低学年教育の変遷と合科的な指導などの改善策及び、生活科誕生の背景					
3	「ジャガイモのプランター栽培活動」1回目		○ ジャガイモのプランター栽培の開始(種いも植え)(本時以降は各自が機会設定して作業を実施する。)					
4	生活科改訂の趣旨		○ 学習指導要領解説書から「目標の改善」「内容及び取扱いの改善」の概要					
5	生活科の教科目標と学年目標		○ 教科目標の構造的な理解と学年目標の構成・趣旨についての理解					
6	生活科の内容、内容構成の考え方		○ 生活科の内容構成の考え方と9項目の内容のあらましの理解					
7	「ジャガイモのプランター栽培活動」2回目		○ ジャガイモのプランター栽培の中間作業(芽欠き・増し土・追肥等)の屋外活動					
8	生活科の内容例		○ 生活科の内容と具体的な学習活動及びビスタートカリキュラム等(内容構成と学習指導案の実際)					
9	生活科授業展開の事例		○ 県内小学校の実践資料や発表資料をもとにした実際の授業のあらまし					
10	生活科の実践活動例1		○ 1単元から主活動となる例を取り上げた探索活動の実践「通町商店街の特徴を探る活動をしよう」					
11	生活科の実践活動例2		○ 上記活動に関する表現活動(作品発表や作品コンクール、報告会など)					
12	生活科の実践活動例3		○ 身近な素材を使った製作活動の実践「日用品でおもちゃをつくって遊んでみよう」					
13	「ジャガイモのプランター栽培活動」3回目		○ プランター栽培の収穫適期に合わせたジャガイモの収穫・片付け作業及び体験活動の自己評価					
14	幼・保と小学校との連携の在り方		○ 幼児期から児童期への発達特性の視点から小学校生活への円滑な移行をめざした連携の在り方					
15	まとめの評価		○ 生活科の役割と幼児期における保育との関連や授業の実際についてのまとめ及び評価					
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』(日本文教出版) その他、自作プリントによる							
参考文献	特定せず。(その都度、関連する書籍等を紹介する)							

科目名	相談援助	必修・選択	選 択 (保資必修)	授業形態	演 習	評価の方法	試験	70%
							レポート	—
担当者	藤原 法生	単位数	1	学年・期間	2 年 期 前 期		提出課題	—
							授業態度・意欲	30%
授業のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者等が抱える様々な問題に対応できるよう、相談援助の基本とその活用方法について学ぶ。</li> <li>・講義・演習・事例学習を組み合わせる授業を行う。</li> </ul>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談援助の基本を理解することができる。</li> <li>・対象者が援助活動の主役であることを理解し、援助者としての基本的態度を身につけることができる。</li> </ul>							
準備学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業毎にノートとテキストを再読すること。</li> <li>・次回の範囲についてテキストを一読して授業に臨むこと。</li> <li>・できる範囲で学習内容を普段の生活の中で実践すること。</li> </ul>							
回	授業計画	授 業 内 容						
1	オリエンテーション	保育と相談援助						
2	相談援助の基本(1)	専門対人援助関係						
3	相談援助の基本(2)	援助者の自己覚知						
4	相談援助の基本(3)	援助者の基本姿勢、信頼関係						
5	相談援助の基本(4)	コミュニケーション						
6	相談援助の体系	直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術						
7	ケースワーク(1)	ケースワークの定義と原則						
8	ケースワーク(2)	ケースワークの原則						
9	ケースワーク(3)	ケースワークの展開過程						
10	ケースワーク(4)	ケースワークの方法と技法						
11	ケースワーク(5)	ケースワークの技法						
12	グループワーク(1)	人間と集団、グループワークの定義						
13	グループワーク(2)	グループワークの原則						
14	グループワーク(3)	グループワークの展開過程						
15	事例学習	事例検討学習						
テキスト	小林育子・小館静枝・日高洋子著：『保育者のための相談援助』(萌文書林)							
参考文献	なし							



科目名	保育相談支援	必修・選択	選択 (保資必修)	授業形態	演習	評価の方法	試験	85%
							レポート	—
担当者	蛭田 一美	単位数	1	学年・期間	2 年 後 期		提出課題	—
							授業態度・意欲	—
							現場体験レポート	15%
授業の ねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援・保育相談支援の内容、現状、課題などについて、実践的な学習を進めながら理解を深め、保育における保護者支援のあり方を学ぶ。</li> <li>レジメ、資料等による学習を中心とするが、授業の一環として、地域の子育て支援の場において現場体験を行う。</li> </ul>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育の現場における子育て支援・保育相談支援の意義が理解できる。</li> <li>専門職としての保育相談支援について考え、保護者に対応する能力を身に付ける。</li> <li>現場体験を通し、企画力、展開力、コミュニケーション能力などの技能の基礎を培う。</li> </ul>							
準備学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援センターにおける現場体験を課題とするため、事前に自分が住んでいる地域について調べておくことが望ましい。</li> <li>グループのメンバーと協力し、子育て支援の場を企画し責任を持って取り組むことを期待する。</li> </ul>							
回	授業計画			授業内容				
1	子育て支援とは何か			子育て支援の定義				
2	保育相談支援とは何か			保育相談支援の意義				
3	現代の子育て家庭の現状			子育て家庭の負担感と不安感				
4	保育者の専門性と子育て支援			各種制度から見る子育て支援				
5	子育て支援の実際Ⅰ (グループ活動企画)			子育て支援(遊びの広場)の実施について				
6	子育て支援の実際Ⅱ (グループ活動企画)			保護者とのかかわりについて学ぶ				
7	地域における社会資源Ⅰ			地域における子育て支援センターの場・人・活動について				
8	地域における社会資源Ⅱ							
9	地域子育て支援センターにおける 現場体験Ⅰ			支援の現状と求められる多様性				
10	地域子育て支援センターにおける 現場体験Ⅱ			保護者支援の方法と技術				
11	保護者への保育相談支援Ⅰ			日常保育場面における保育相談支援				
12	保護者への保育相談支援Ⅱ			保育相談支援の直接的な手段				
13	保護者への保育相談支援Ⅱ			保育相談支援の間接的な手段				
14	多様な子育て支援			ノーバディーズ・パーフェクト・プログラムについて				
15	まとめ							
テキスト	『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』 適宜、授業で資料を配布							
参考文献	『保育用語辞典』							

科目名	家族援助論		必修・選択	選択 (保資必修)	授業形態	講義	評価の方法	試験	80%
	担当者	藤原 法生	単位数	2	学年・期間	2 年 後 期		レポート	—
授業のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族を取り巻く様々な課題とその援助体系や方法について学ぶ。</li> <li>・事例を活用し、具体的な支援について考えながら授業を進める。</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族を取り巻く現状について理解することができる。</li> <li>・相談援助の基本を活用した具体的な支援方法について理解することができる。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期開講「相談援助」の基本とケースワークの原則を確認しておくこと。</li> <li>・授業毎にノートを再読すること。</li> </ul>								
回	授業計画				授業内容				
1	オリエンテーション				家族の福祉				
2	家族と家族援助				家族・家庭の定義と意義・機能、家族援助の定義				
3	子どもと家庭				家族の形態、家族と地域				
4	家族を取り巻く状況(1)				少子社会、家族の変化と多様化				
5	家族を取り巻く状況(2)				家族に起こる諸問題				
6	家族支援の方法と過程(1)				家族支援の取り組み				
7	家族支援の方法と過程(2)				家族支援の体制、社会資源				
8	家族支援の方法と過程(3)				家族支援の体制、社会資源				
9	家族支援の方法と過程(4)				支援の基本、支援過程				
10	家族支援の方法と過程(5)				支援の視点、情報提供				
11	家族支援の実際(1)				親のニーズと子どものニーズ				
12	家族支援の実際(2)				ケース別対応(DV)				
13	家族支援の実際(3)				ケース別対応(虐待)				
14	家族支援の実際(4)				ケース別対応(虐待)				
15	家族支援の実際(5)				ケース別対応(障がい児)				
テキスト	なし(必要に応じて資料を配布)								
参考文献	土谷みち子・近藤幹生著：『家庭支援論』(青踏社)								

科目名	子どもの保健 I B		必修・選択	選択 (保資必修)	授業形態	講義	評価の方法	試験	75%
	担当者	武田 留美	単位数	2	学年・期間	2 年 後 期		レポート	—
授業のねらいと概要	子どものみならず、人を取り巻く環境の変化などから様々な心身の問題が近年取り上げられている。その背景の理解や対応を学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの心身の発達と健康についての意義を理解する。</li> <li>子どもの精神保健とその課題等について理解する。</li> <li>精神疾患を含む心の諸問題への知識の習得と一般的な対応について理解する。</li> <li>健康とメンタルヘルスを学ぶことにより、自分自身の健康や自分らしい生き方に関心を持ち、考えることができる。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定した次回授業範囲の専門用語を調べておくこと。</li> </ul>								
回	授業計画				授業内容				
1	オリエンテーション				授業の進め方、健康と精神保健				
2	子どもの成長と発達				子どもの心の育ち～胎生期・新生児期・乳幼児期				
3					子どもの心の育ち～幼児期				
4	心の諸問題と発達				乳児期・幼児期～発達障害、排せつの問題、言葉の問題				
5					児童期①～第二次性徴と社会化				
6					児童期②～摂食障害				
7					青年期①～青年期の発達課題、統合失調症				
8					青年期②～心身症・不安障害				
9					青年期③～リストカット・うつ病				
10	心身症とストレス				ストレス、心身症、習癖異常				
11	母子保健とメンタルヘルス				母子のメンタルヘルス～妊娠・出産・育児を行う母の心理と行動 家族の在り方、男性の立場から見た育児				
12	心身の健康				生活環境と精神保健、子どもを守る意識				
13					DV(ドメスティック・バイオレンス)について考える				
14	子どもを取り巻く状況				地域における保健活動と育児支援、家庭・専門機関・地域の連携				
15	保育者のメンタルヘルス				災害ストレスと子どものケア、保育者自身のケアと健康				
テキスト	なし								
参考文献	その都度、書籍、資料を紹介していく。								

科目名	教育原理	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	—
							発表とレポート	40%
担当者	五十嵐 隆文	単位数	2	学年・期間	2 年期 前 期		授業ノート	40%
							授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要	教育の理念、教職の意義、保育者の使命等について、教育実践の歴史と法的位置付けを押さえながら、多面的に考察し、使命感と将来の学びの動機付けを高める。							
到達目標	講義や話し合いのプロセスを通して、教育・保育の全体像を把握し、政策の動向や、社会からの期待を認識した上で、資質能力の向上に努めるとともに、発表やレポート、授業ノートを通して、考察を深め、学修の成果につなげることができる。							
準備学習 (予習・復習)	毎時間の講義について、内容をまとめ、学んだことについて深く考察するための、授業ノートの作成と提出を行う。授業内容の定着と、将来のための、文章作成の習慣づけと能力の向上を目標とする。							
回	授業計画			授 業 内 容				
1	教育と保育の全体像(1)			オリエンテーション 教育の理念 教育と保育の全体像				
2	教育と保育の全体像(2)			幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所における教育と保育				
3	教職・保育職の意義と使命(1)			国の目指す方向と保育者への期待				
4	教職・保育職の意義と使命(2)			学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針等の要点				
5	教職・保育職の専門性と研修			職の専門性とは何か 保育者にとっての研修の意義				
6	日本の教育・保育の歴史			日本の教育・保育の歴史				
7	教育を考えた人たち さまざまな理論や実践			近代の教育に大きな影響を与えた教育思想と教育実践				
8	保育者にとってのコンプライアンス (法令遵守)(1)			秘密を守る義務、信用失墜行為				
9	保育者にとってのコンプライアンス(2)			懲戒と体罰				
10	保育者にとってのコンプライアンス(3)			親の「しつけ」と児童虐待				
11	幼児期におけるキャリア教育と 先進的な取り組み(1)			幼児期の教育とキャリア教育				
12	幼児期におけるキャリア教育と 先進的な取り組み(2)			保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園における先進的な取組				
13	保育者のキャリアパスと自己実現(1)			保育者のキャリアパスと自己実現				
14	保育者のキャリアパスと自己実現(2)			自分が目指す教職、保育職像(グループ内発表)				
15	保育者のキャリアパスと自己実現(3)			自分が目指す教職、保育職像(全体発表)				
テキスト	自作プリント資料を使用する。A4綴じ込み用ファイル必須 また、授業後に提出するための「授業のまとめと考察ノート」必須							
参考文献	『保育小六法最新版』(ミネルヴァ書房)、『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(いずれもフレーベル館)							

科目名	保育の心理学Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	演習	評価の方法	試験	—
	担当者	加藤 順子	単位数	1	学年・期間	2 年 後 期		レポート	40%
授業のねらいと概要	子どもの発達のだん筋や保育における発達援助について理解する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。</li> <li>生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。</li> <li>保育における発達援助について理解する。</li> </ul>								
準備学習(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストの該当箇所を読んでおくこと。</li> <li>演習の際には、積極的な参加、発言を期待する。</li> </ul>								
回	授業計画				授業内容				
1	発達を通じた子どもへの理解				子ども理解における発達の把握、発達を理解するための手法				
2	個人差や発達過程に応じた保育				個人差とは、発達過程とは				
3	身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用				子どもにとっての経験とは何か、身体感覚と知覚				
4	環境としての保育者と子どもの発達				子どもと環境の相互作用、保育の環境と保育者、保育者の関わりが子どもに与える影響				
5	子ども相互の関わりと関係づくり				仲間、社会性の発達、仲間関係の発達といざこざ				
6	自己主張と自己統制				自己認識の発達、自己統制の発達、他者の理解と心の理論				
7	子ども集団と保育の環境				個と集団、集団内でのつまずき、集団を意識した保育の環境				
8	子どもの生活と学び				学びとは何か、学びの理論、学びを育む保育				
9	子どもの遊びと学び				遊びとは何か、遊びの分類、遊びを通して学ぶ				
10	生涯にわたる生き方の基礎を培う				生きる力とは何か、生きる力の基礎となる要素				
11	基本的生活習慣の獲得と発達援助				基本的生活習慣とは何か、生活リズム、保育者としての発達援助				
12	自己の主体性の形成と発達援助				主体性とは何か、主体性を育む保育				
13	発達の課題に応じた援助や関わり				個人差に配慮した発達援助、特別な配慮が必要な子どもへの発達援助				
14	地域との連携、就学への支援				発達の連続性とは何か、保育所・幼稚園と小学校の連携				
15	現代社会における子どもの発達と保育の課題				子どもを取り巻く問題と保育の課題、コミュニケーションの課題と保育の役割				
テキスト	松本峰雄監修：『よくわかる！保育士エクササイズ4 保育の心理学演習ブック』（ミネルヴァ書房）								
参考文献	その都度、書籍、資料を紹介していく。								

科目名	発達心理学	必修・選択	選 択	授業形態	講 義	評価の方法	試験	—
							レポート	20%
担当者	武田 留美	単位数	1	学年・期間	2 年 後 期		提出課題	—
							授業態度・意欲	80%
授業のねらいと概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園や保育所等で遭遇する諸問題に対応する方法を学ぶ。</li> <li>・ 発達をみる指標についての理解を深める。</li> <li>・ 育児支援としての保護者対応を考える。</li> </ul>						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの日常的な言動、エピソードから、発達を理解する視点を養う。</li> <li>・ 相談場面での「きく」技術を習得する。</li> <li>・ 保護者対応も含め、幼稚園や保育所等で遭遇する諸問題に対応するための基礎を習得する。</li> </ul>						
準備学習 (予習・復習)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習を多く取り入れる予定のため、受講者は積極的に参加、発言をすること。</li> <li>・ 授業中に指定した時事問題について調べておくこと。</li> </ul>						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	オリエンテーション		授業の進め方					
2	発達の基礎知識		愛着の発達					
3			かかわりの発達					
4	親子を支える保育者のかかわり		保育場面での「気になる」子ども					
5			保育カウンセリングと保育					
6			日々の保育実践の蓄積を生かす					
7	話のきき方トレーニング		「きく」とは？～「聴く」練習(1)					
8			「聴く」練習(2)					
9	事例検討		「気になる子」の事例～あなたならどう考える？					
10			「対応に困る保護者」の事例～チームで考えてみよう					
11	発達援助の実際		発達援助の実際(1)					
12			発達援助の実際(2)					
13			リラクセーションを体験しよう					
14	地域の中での保育の役割		今、保育者に求められていることとは？					
15	予備日		まとめと復習					
テキスト		なし						
参考文献		その都度、書籍、資料を紹介していく。						

科目名	教育制度	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	
						試験	—
担当者	五十嵐 隆文	単位数	2	学年・期間	2 年 後 期	発表とレポート	40%
						授業ノート	40%
授業のねらいと概要	教育・保育と法制度、その組織と運営、リスクマネジメント等の教育に関する社会的、制度的、経営的事項の学修をもとに、現在の教育・保育の課題について考察する。						
到達目標	現在及び将来の教育・保育施設や保育者に求められる事項について、関係する法制度、答申、ガイドライン等の内容をもとに考察し、自らの課題と社会の課題を認識した上で、自主的な学びに向かう力を身に付けることができる。						
準備学習 (予習・復習)	毎時間の講義について、内容をまとめ、学んだことについて深く考察するための、授業ノートの作成と提出を行う。授業内容の定着と将来、保育職に就いた際の保育記録作成のため絵の力を身に付けることを目標とする。						
回	授業計画		授 業 内 容				
1	教育・保育と法制度(1)		オリエンテーション 教育と法制度				
2	教育・保育と法制度(2)		日本国憲法、教育基本法との関わり				
3	教育・保育と法制度(3)		学校教育法、学校教育法施行規則、教育公務員特例法 地方公務員法との関わり				
4	教育・保育と法制度(4)		児童の権利に関する条約、児童福祉法との関わり				
5	教育・保育の組織と運営(1)		子ども・子育て支援法、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(認定こども園法)との関わり				
6	教育・保育の組織と運営(2)		教育行政、教育・保育施設の目的と機能、教育委員会制度				
7	教育・保育の組織と運営(3)		校内(園内)の組織と運営				
8	教育・保育の組織と運営(4)		学級経営、保護者や地域との連携、学級便り、園便り				
9	教育・保育施設における評価の在り方		自己評価、学校関係者評価、第三者評価				
10	リスクマネジメント (危機管理)と保育者(1)		教育・保育施設におけるリスクマネジメント				
11	リスクマネジメントと保育者(2)		保育事故事例とヒヤリ・ハット				
12	リスクマネジメントと保育者(3)		「いじめ」について				
13	リスクマネジメントと保育者(4)		保護者、地域からの苦情とその対応について				
14	教育・保育に対する期待と課題(1)		現代の社会における教育・保育に対する期待と課題				
15	教育・保育に対する期待と課題(2)		教育・保育の課題の解決に向けての提言(グループ内発表)				
16	教育・保育に対する期待と課題(3)		教育・保育の課題の解決に向けての提言(全体発表)				
テキスト	自作プリント資料を使用する。A4綴じ込み用ファイル必須 また、授業後に提出するための「授業のまとめと考察ノート」必須						
参考文献	『保育小六法最新版』(ミネルヴァ書房)、『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(いずれもフレーベル館)						

科目名	教育・保育課程総論	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	60%
		担当者	猿田 興子	単位数	2		学年・期間	2 前期
授業のねらいと概要		保育課程の編成と指導計画の作成について講義を通して学び、実際の指導計画作成を行う。さらに計画、実践、省察、評価、改善の過程について実習の体験を生かして全体的にとらえて理解する。テキスト、プリント等による学習を中心にするが、必要に応じて保育実践などを行う。						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解できるようになる。</li> <li>・保育の計画、実践・省察、評価、改善の過程について全体構造を動的にとらえ判断することができる。</li> <li>・保育課程の編成と指導計画の編成を具体的に理解し、保育の現場で活用できる知識技能の基礎を培う。</li> </ul>						
準備学習(予習・復習)		講義のみではなく演習を取り入れた授業を予定している。自ら考え主体的に取り組んでほしい。事前準備として年齢による発達の特徴や保育内容の調査を通して具体的な指導案を作成し、事後は指導案の不足部分を再確認すること。						
回	授業計画		授業内容					
1	幼稚園・保育園の役割と指導計画		幼稚園・保育園の役割について・幼児の生活する姿をとらえる 幼児の生活と幼稚園・保育園における指導について					
2	指導計画作成のポイントⅠ		指導計画と幼児理解との関係について 指導計画の具体的な内容を知る					
3	指導計画作成のポイントⅡ		ねらい・内容・環境の構成について 指導計画作成の実際について					
4	指導計画作成の手順		指導計画作成上の配慮点について 6月保育実習(総合実習)用の指導案作成の実践					
5	指導計画作成Ⅰ		保育者の援助・配慮点の記述について 保育の見通しと保育用語の特徴をとらえる					
6	グループディスカッション		年齢別グループに分かれて指導案について話し合う 他の学生の発表から視野を広げる					
7	指導計画と保育の実際		ビデオ視聴を通して 指導計画と保育・指導計画と子どもの姿・・・その関係から					
8	長期の指導計画についてⅠ		幼児の生活する姿を見通す 指導の重点・長期の指導計画について探る					
9	長期の指導計画についてⅡ		幼稚園・保育園と地域の環境と長期指導計画について 事例を通して考える					
10	短期の指導計画について		一日の生活の流れを予想した指導計画について 事例を通して考える					
11	短期の指導計画と保育の展開Ⅰ		日常の生活場面における保育の展開について ビデオ視聴を通して					
12	短期の指導計画と保育の展開Ⅱ		保育の展開と望ましい保育者の姿勢について探る 事例を通して考える					
13	指導計画作成Ⅱ		11月教育実習(総合実習)用の指導案作成の実践					
14	指導計画作成		様々な指導計画例にふれる					
15	まとめ		いままでの学びから自分の保育を作り上げる期待と関心を持つ					
テキスト		文部科学省：幼稚園教育指導資料第1集 『指導計画の作成と保育の展開』(フレーベル館)						
参考文献		『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『保育用語辞典』						



科目名	保育内容総論				試験	50%				
	必修・選択	選 択 (保資必修)	授業形態	演 習		評価の方法	レポート			
担当者	津谷 ゆき子				単位数	1	学年・期間	2 年 前 期	提出課題	20%
										授業の ねらいと概要
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本と保育内容を理解することができる。</li> <li>・子どもの具体的な姿から、発達を読み取り個に応じた援助について考えることができる。</li> <li>・保育に対して自分の考えをもち、意見を述べ合い、求める保育の姿を模索することができる。</li> </ul>									
準備学習 (予習・復習)	予習：授業内容と関連あるテキスト部分を事前に読み学習する。 復習：授業後、学習課題について整理し記録する。									
回	授業計画	授 業 内 容								
1	オリエンテーション	授業内容の説明と進め方								
2	保育の基本と保育内容	保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育のねらいと内容								
3	園児の一日	保育所の一日、幼稚園の一日、養護と教育の一体的な展開								
4	保育内容5領域の関連	「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の総合的な活動の展開								
5	遊びや生活と乳幼児の学び①	遊びを通して学ぶ姿を事例で学ぶ								
6	遊びや生活と乳幼児の学び②	発達を促す遊びの環境を考える。								
7	保育内容と子どもの理解①	事例で学ぶ保育内容① エピソード：0歳児・1歳児（記録の重要性）								
8	保育内容と子どもの理解②	事例で学ぶ保育内容② エピソード：2歳児・3歳児（記録の重要性）								
9	保育内容と子どもの理解③	事例で学ぶ保育内容③ エピソード：4歳児・5歳児（記録の重要性）								
10	個と集団の発達	個の育ちと集団の育ち、集団の中での個の育ち、養護と教育								
11	遊びの紹介①	グループごとにテーマを決め、紹介する遊びを考える。								
12	遊びの紹介②	グループごとに遊びを紹介し合う。								
13	子育ての支援	子育て支援の動向								
14	多様な子どもへの対応	特別な支援が必要な子どもの保育								
15	まとめ	まとめのレポート作成								
テキスト	大豆生田啓友・渡辺英則・柴田正行・増田まゆみ編：『最新保育講座4 保育内容総論』（ミネルヴァ書房） 『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説』									
参考文献	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』									

科目名	保育内容の指導法 健康		必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	—
	担当者	猿田 興子	単位数	2	学年・期間	2 年期 前期		レポート	80%
授業のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児を取り巻く社会環境の変化の特徴と領域「健康」のねらいと内容に関する基本的な知識を得ることから始め、乳幼児期の「心身の健康」について取り上げる。</li> <li>・事例に触れ、保育者の関わり方や環境の構成、運動遊びなど実践的な学びを取り入れる。</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容「健康」のねらい・内容を理解することができる。</li> <li>・心と体の健康は相互に関連しあっていることを理解する。</li> <li>・健やかな心と体を支えるための保育内容を理解し、保育者の環境の構成や援助の工夫を読み取ることができる。</li> <li>・領域「健康」について得たことや課題について自分の考えをまとめレポートに的確に表現することができる。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	<p>実習の体験も生かし、具体的に乳幼児の心と体の関連性について学びを深めてほしい。学生自身の基本的な生活体験を考える機会として捉え、将来の保育者として必要な識見と心構えを得られるよう積極的な授業参加を望む。随時配布する資料について事前事後の課題記入に取り組んでほしい。</p>								
回	授業計画			授業内容					
1	領域「健康」の理解			保育の基本とは					
2	〃			保育所保育指針、幼稚園教育要領のねらいと内容					
3	保育の基本と「健康」			養護と教育の一体とは					
4	健やかな心と体を支えているもの			乳幼児の発達の捉え方					
5	〃			乳幼児と保育者の関係性					
6	〃			乳幼児の遊びと活動意欲の発達					
7	〃			基本的な生活習慣の形成とは（食育とともに）					
8	「健康」と保育方法			環境構成と保育者の役割					
9	「健康」と保育の実践			心の安定を持つこととは					
10	〃			健康や病気について考える					
11	「健康」の指導上の留意点			子どもの体力づくりとは					
12	〃			保育環境の安全性					
13	「健康」と指導計画			年齢にあった運動遊びの指導計画の作成					
14	〃			年齢にあった運動遊びの指導計画の発表、見直し					
15	「健康」における問題点 課題とまとめ			スポーツ指導、管理的指導、安全指導について					
テキスト	河邊貴子・柴崎正行・杉原 隆編：『最新保育講座 7 保育内容「健康」』（ミネルヴァ書房）								
参考文献	『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』								

科目名	保育内容の指導法 環境		必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	70%
	担当者	佐々木 啓子	単位数	2	学年・期間	2 年 後 期		レポート	—
授業のねらいと概要	子どもを取り巻く保育環境について学び、乳幼児期にふさわしい環境を考えることができるようになることや、「環境による保育」と領域「環境」の違いを理解し、子どもが環境にかかわって遊ぶことの重要性を理解することをねらいとする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容「環境」のねらい・内容を理解することができる。</li> <li>・子どもを取り巻く環境に興味・関心をもち、子どもにとっての「環境」の意味を理解する。</li> <li>・子どもが環境に主体的なかかわりをするための、保育者の役割や配慮について考えることができる。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	テキストの授業内容に該当する箇所事前に目を通し、理解が深まるように準備して授業に臨んでほしい。また、授業後には、テキストやプリントを見返し、授業での学びを身に付けてほしい。身近な自然について、日常的に興味・関心をもち、環境にかかわる力が育つことを期待する。								
回	授業計画				授 業 内 容				
1	保育と「環境」				保育における環境				
2	領域「環境」とは				生きる力の基礎を育む「環境」、領域「環境」のねらいと内容				
3	子どもの育ちと領域「環境」				環境を構成する、子どもの発達と環境				
4	子どもを取り巻く物的環境Ⅰ				遊びにおける物、生活における道具、物の性質と仕組み				
5	子どもを取り巻く物的環境Ⅱ				数量や図形、文字や標識に対する感覚				
6	子どもを取り巻く人的環境				子どもと園で働く人々、子ども同士のかかわり、子どもと家庭				
7	子どもを取り巻く社会的環境				園の働き、地域社会の働き、関係機関の働き				
8	子どもを取り巻く自然環境				子どもと季節、子どもと植物、子どもと動物、身近な自然				
9	生きる力を育む環境Ⅰ				好奇心・探求心を育む環境、思考する心を育む環境、表現する心を育む環境				
10	生きる力を育む環境Ⅱ				自立する心を育む環境、道徳心を育む環境				
11	守り育てる環境				生命の保持、情緒の安定				
12	気になる子どもと環境				気になる子ども、障害のある子ども、子どもと多文化				
13	環境を通した保育の現代的課題				子どもを取り巻く社会環境による課題、子どもを取り巻く保育環境による課題				
14	環境へのかかわりを促す保育者の役割Ⅰ				かかわりたくなるような環境の構成、長期的な見通しの中で環境を考える				
15	環境へのかかわりを促す保育者の役割Ⅱ				人的環境として保育者が存在すること				
テキスト	酒井幸子・守巧 編著：『保育内容環境 あなたならどうしますか?』（萌文書林）								
参考文献	『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）、『保育所保育指針解説書』（フレーベル館）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）								

科目名	保育内容の指導法 表現	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	—
							レポート	60%
担当者	蛭田 一美	単位数	2	学年・期間	2 年期 前 期		提出課題	—
							授業態度・意欲	20%
							実技	20%
授業のねらいと概要		領域「表現」のねらい、内容について、感じる、考える、行動するという表現の原点に重点を置きながら実践的な学習をすすめ、豊かな表現者としての保育者のあり方を考える。また子どもの発達を領域「表現」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。テキスト、資料レジメ、プリントなどによる学習を中心とするが、必要に応じて、グループワークや発表を行う。						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容「表現」のねらい・内容を理解することができる。</li> <li>・子どもの表現行動の過程に関心を持ち、保育者のあり方について考え、保育における子どもの多様な表現を読み取る能力を身につける。</li> <li>・自らの表現力が身につくと同時に実際に保育を展開する技能の基礎を習得する。</li> </ul>						
準備学習 (予習・復習)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にテキストの該当箇所を読んでおくことが望ましい。</li> <li>・保育の実際の場における実践力を高めるために自分なりの課題を持つ。</li> </ul>						
回	授業計画			授業内容				
1	オリエンテーション			表現のワークショップ				
2	保育の基本と領域「表現」			幼稚園教育要領・保育所保育指針のねらいの理解				
3	保育内容「表現」とは			領域「表現」と保育者の役割				
4	音・音楽に対する感性と表現Ⅰ			音楽的表現の芽生え				
5	音・音楽に対する感性と表現Ⅱ			子どもの感性を育む音環境				
6	保育内容「表現」の歴史的変遷			領域「表現」の誕生と他の領域との関連				
7	造形に対する感性と表現Ⅰ			「感じて」「考えて」「行動する」ことの重要性				
8	造形に対する感性と表現Ⅱ			造形的思考力と「表現」				
9	表現を育む環境とは			子どもが感じ取るものとしての環境				
10	保育者の役割と援助Ⅰ			表現者としての存在				
11	保育者の役割と援助Ⅱ			表現者としての成長				
12	保育の実際(グループワークⅠ)			グループワークの計画				
13	保育の実際(グループワークⅡ)			グループワークの実践				
14	保育内容「表現」の課題			保育者自身の表現力を育むために				
15	まとめ							
テキスト		平田智久・小林紀子・砂上史子編：『最新保育講座 11 保育内容 表現』（ミネルヴァ書房）						
参考文献		『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』						

科目名	幼児指導法Ⅱ		必修・選択	選 択	授業形態	(演 習)	評価の方法	試験	—
	担当者	蛭田 一美	単位数	1	学年・期間	2 年 後 期		レポート	70%
授業のねらいと概要	子どもに対する理解を深め、保育者として主体的に様々な遊びと環境を通じた保育の展開を行うために必要な能力を身に付ける								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達段階を理解する。</li> <li>幼児指導法を多面的にまなぶことにより、実際に保育を展開する技能の基礎を培う。</li> </ul>								
準備学習(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで経験したことや色々な授業と関連づけてづけて思考し、課題を持って授業に参加すること。</li> <li>遊びの実践を通して、保育の質を高めることに繋がることを期待する。</li> </ul>								
回	授業計画				授 業 内 容				
1	オリエンテーション				幼児指導法Ⅱについて				
2	オリエンテーション				授業計画、進め方について				
3	保育における環境構成Ⅰ				子どもの感性を養うための環境構成と保育の展開について				
4	保育における環境構成Ⅱ				アフォーダンスについて考える				
5	保育における環境構成Ⅲ								
6	身体を使った遊びⅠ				体を使った遊びに関する実践法 「一緒に」「身体でイメージを膨らませる」「言葉の表現と体の表現」 それぞれのテーマに沿って自分の身体で共振、揺れる、跳ぶ、ひねる、などの動きからイメージを身体で表現する。				
7	身体を使った遊びⅡ								
8	身体を使った遊びⅢ								
9	身体を使った遊びⅣ								
10	身近な素材を使った遊びⅠ				身近な素材を使った遊びに関する実践法 手で持つことのできない素材(光・風・空気)、糸・紐をつかった遊び、紙素材(新聞紙・お花紙・ボール紙・段ボール・)の中から 選択した素材の特性を活かし、様々な遊びを考える。				
11	身近な素材を使った遊びⅡ								
12	身近な素材を使った遊びⅢ								
13	身近な素材を使った遊びⅣ								
14	授業のまとめと振り返りⅠ				それぞれでまとめたレポートものを、発表する				
15	授業のまとめと振り返りⅡ				それぞれでまとめたレポートものを、発表する				
テキスト	平田智久・小林紀子・砂上史子編：『最新保育講座 11 保育内容表現』(ミネルヴァ書房)								
参考文献	こどもはみんなアーティスト 和久 洋三(玉川大学出版部) 乳幼児の造形表現 平田智久 小野 和 (保育出版社)								

科目名	乳児保育Ⅱ	必修・選択	選 択	授業形態	講 義	評価の方法	試験	—
							レポート	40%
担当者	鎌田 妙子	単位数	1	学年・期間	2 年 期 前 期		提出課題	30%
							授業態度・意欲	30%
授業のねらいと概要		乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎をつくる大事な時期である。乳幼児期の生活の場が豊かになるように具体的事例を通して学ぶ。						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児の発達過程を理解することができる。</li> <li>・乳児の発する声や表情、しぐさに関心を持つことができる。</li> <li>・一人ひとりの育ちを受けとめ、温かく見守る態度を身につける。</li> </ul>						
準備学習 (予習・復習)		保育所保育指針には、各年齢ごとの発達過程や保育内容が示されている、次回授業の際には指定されたところをよく読んで授業に臨む。また乳児の内面にある育ちを支えるためには何が大切なのかを考えてみる。						
回	授業計画		授 業 内 容					
1	乳児保育の役割		特定の人への愛着について 人間形成の基礎がつけられることについて 基本的な生活リズムの獲得について					
2								
3								
4	乳児の発達過程と生活と遊びの援助		6ヵ月未満児の生活と遊びの援助について 6ヵ月から1歳3ヶ月未満児の生活と遊びの援助について 1歳3ヶ月から2歳未満児の生活と遊びの援助について 2歳児の生活と遊びの援助について					
5								
6								
7	乳児保育の1日		保育時間と保育内容について 活動と保育士の援助について 安全の配慮について 事例から、生き生き遊ぶための保育者の援助の在り方					
8								
9								
10			保育記録 保育日誌 家庭との連携 保育者のチームワークのあり方 保護者とのかかわりについて					
11	保育活動を支えるもの							
12								
13			保育者として求められるもの					
14								
15	まとめ							
テキスト								
参考文献		『保育所保育指針解説書』 巷野悟郎・植松紀子編著：『乳児保育0歳児・1歳児・2歳児』（光生館）						

科目名	社会的養護内容	必修・選択	選 択 (保資必修)	授業形態	(演 習)	評価の方法	試験	70%
							レポート	—
担当者	佐々木 久仁明	単位数	1	学年・期間	2 年 前 期		提出課題	20%
							授業態度・意欲	10%
授業のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的養護における保育士の役割の重要性とその内容を理解する。</li> <li>社会的養護の基礎理論を踏まえ、より深く、より具体的に児童の援助方法を知る。</li> <li>事例を通して実践的な側面に触れ、適切な児童処遇のあり方を考える。</li> </ul>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的養護の支援プロセスにおける援助の内容が分かる。</li> <li>社会的養護における事例をめぐっての児童との適切な関わりの方法が分かる。</li> <li>親子関係の援助方法・地域との関わりにおける施設のあり方などを理解する。</li> </ul>							
準備学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>援助を必要とする児童の人権擁護、自立支援を行う保育士として専門性を身に付けるようにする。</li> <li>施設実習の準備、または復習として事例と理論を結びつけながら、熱心に学ぶこと。</li> <li>各自の実習施設について、資料を探し、自ら積極的に学ぶようにする。</li> </ul>							
回	授業計画	授 業 内 容						
1	今日の養護問題と保育士の役割	社会的養護における保育士の役割、今日の家庭状況及び社会的養護の状況						
2	社会的養護の展開と留意点	アドミッションケア、インケア、リービングケア、アフターケア 施設養護の利点、欠点、自立支援、日常生活援助						
3	児童養護施設の基本的援助・自立支援	日常生活援助(衣食住、保健衛生、金銭管理、親子関係)						
4	学習指導、余暇活動	環境整備、指導内容、レクリエーション、安全指導						
5	小規模グループケアと家庭的援助	ユニットケア、地域小規模児童養護施設、ファミリーホームにおける援助						
6	里親制度	里親委託、専門里親、レスパイトケア、パーマネンシープランニング						
7	児童福祉施設の現状	子ども、職員、設備など						
8	乳児院の生活	愛着関係、担当制、親子関係、家庭復帰						
9	児童自立支援施設における生活	非行、生活指導、学習指導、作業指導						
10	母子生活支援施設における生活	DV、シェルター、母と子の自立支援(サテライト)						
11	(旧) 肢体不自由児施設における生活 重症心身障がい児施設	早期療育と生活指導						
12	(旧) 知的障がい児施設における生活 児童家庭支援センター・児童館	自己決定、社会的許容、自閉症児施設 相談援助、子育て支援						
13	情緒障がい児短期治療施設 一時保護所	虐待、トラウマ、心理療法、家族との連携 虐待と緊急入所						
14	児童自立生活援助事業	リービングケア、アフターケア、自立援助ホーム、生活指導、 就業指導						
15	まとめ							
テキスト	辰己隆・岡本眞幸：『改訂 保育士をめざす人の社会的養護内容』(みらい)							
参考文献	『社会福祉小六法2017年版』(ミネルヴァ書房) 庄司順一・鈴木力也編著：『社会的養護シリーズ』全4巻(福村出版)							

科目名	援助に生かす心理学		必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	75%
	担当者	武田 留美		2		2 年期 前 期		レポート	—
授業のねらいと概要		心理療法やカウンセリングの基礎となる心理学的援助理論を理解する。保育現場で子どもや保護者への支援を行う際の考え方の基本を習得する。							
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理学的援助理論について理解する。</li> <li>発達障害への理解を深める。</li> <li>虐待や保育現場での‘気になる子’の特徴を理解する。</li> </ul>							
準備学習 (予習・復習)		<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児の発達の基本に関しては、その都度復習し、理解しておくこと。</li> <li>指定した用語、時事問題に関して調べておくこと。</li> </ul>							
	回	授業計画			授業内容				
1	オリエンテーション			授業の進め方、援助に生かす心理学とは何か					
2	心理学を援助に生かすとは			心理学の歴史、様々な援助の場にどのように生かされているか					
3				発達心理学の復習：発達の確認					
4	心理アセスメントの概要			心理テストと様々なアセスメント					
5	心理学的援助の理論 (臨床心理学の理論)			精神分析、行動療法					
6				クライアント中心療法、遊戯療法、芸術療法					
7				様々な心理療法(短期療法、臨床動作法など)					
8	乳幼児の心の諸問題			各発達段階の課題と諸問題(乳児～就学まで)					
9	発達障害			発達障害の捉え方(1)～様々な発達障害と対応の基礎					
10				発達障害の捉え方(2)～就学へむけての援助/就学後のつまづきへの支援(いじめ・登校しぶり・友人関係)					
11	虐待			虐待の定義、関連する法律					
12				虐待の心理的影響、保育者としてできること					
13	子どもの心配なサインの確認			心身に現れる不安のサインへの気づきと対応					
14	地域における子育ての連携と保育			子育ての現状と課題、地域との連携					
15				子育て不安をどう支えるか					
テキスト		なし							
参考文献		その都度、書籍、資料を紹介していく。							



科目名	保育・教職実践演習 (幼稚園)		必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	—
	担当者	五十嵐隆文、猿田興子 ほか	単位数	2	学年・期間	2 年 後 期		レポート	—
授業の ねらいと概要	これまでの教育・保育専門科目の履修を振り返り、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能等を補い、実践的指導力を高めるため、使命感や対人関係能力、幼児理解、保育内容の指導力の向上方法などについて、事例研究やグループ討議、調査、実技、模擬授業などをとおして学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育に対する使命感や責任感、情熱等をもち、適切に行動することができる。</li> <li>・内外の他者と関わる組織の一員にふさわしい社会性や対人関係能力を身につける。</li> <li>・幼児理解やクラス経営、保育内容の指導に関する知識や技能を身につけている。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	授業内容に関連して、2年前期までに学習した内容を復習したうえで、2年間の学びを集大成するという姿勢で積極的に授業に参加することを期待する。 自己の課題を自覚し、指導案の作成、実践的な演習事後の実践記録を作成するなどをしたうえで授業に臨んでほしい。								
回	授業計画			授 業 内 容					
1	オリエンテーション			授業の概要について【本科目の目標と計画、担当者等について説明する。】、 2年間の学修の振り返り【学修を振り返り、各科目の状況を確認する。】					
2	教育・保育内容等の指導力(1)			} 指導計画の作成【保育の専門教員の指導により保育の指導計画の作成方法を学ぶ】					
3	教育・保育内容等の指導力(2)								
4	教育・保育内容等の指導力(3)								
5	教育・保育内容等の指導力(4)								
6	教育・保育内容等の指導力(5)			幼児理解とカンファレンス【保育の専門教員の指導により幼児理解のためのカンファレンスについて学ぶ】					
7	教育・保育内容等の指導力(6)			} 幼児理解と記録【保育の専門教員の指導により幼児理解のための記録方法を学ぶ】					
8	教育・保育内容等の指導力(7)								
9	使命感や責任感、教育的愛情等			保育専門職の基本【保育専門職に必要な使命感や責任感、愛情等について学ぶ。】					
10	社会性・対人関係能力(1)			上司、同僚との人間関係スキル【事例についてグループ討論等を行う。】					
11	社会性・対人関係能力(2)			保護者との人間関係スキル【事例についてグループ討論等を行う。】					
12	教育・保育内容等の指導力(8)			} 造形表現の指導と実際、運動・遊びの実際【ローテーションで、美術、体育の専門教員の指導により指導方法を学ぶ】					
13	教育・保育内容等の指導力(9)								
14	教育・保育内容等の指導力(10)			保育における楽器の提示と指導【音楽の専門教員の指導により指導方法を学ぶ】					
15	幼児理解やクラス経営			クラス運営と保育者の連携について【学級運営と保育者の連携について講義を受ける。】					
テキスト	随時、プリントや資料等を配付する。								
参考文献									

科目名	卒業研究	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	各担当者による
		担当者	専任教員 11名	単位数	2		学年・期間	
提出課題								
						授業態度・意欲		
授業のねらいと概要		これまでの教育・保育専門科目の履修をふり返り、興味関心のある内容や不足している内容について、自分なりのテーマや課題をもって研究する。						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のテーマや課題を明確にもち、継続して学修を積み重ねていくことができる。</li> <li>学習内容について研究し、理解や技能を深めたり、高めることができる。</li> </ul>						
準備学習(予習・復習)		選択したテーマ、担当者の指示に従い準備学習に取り組むこと。						
回	授業計画			授業内容				
1	オリエンテーション			<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 各自が選択したテーマにそって、担当教員と相談しながら計画を立て、研究を進める。  詳細は、『卒業研究説明会』で配布する資料参照のこと。 </div>				
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30	まとめと発表			それぞれのグループでまとめを発表する。				
テキスト		各担当者による。						
参考文献		各担当者による。						

# 実 習

科目名	教育実習指導			授業形態	実習	試験	-
	必修・選択	選択 (幼免必修)	単位数				
担当者	佐々木 啓子			1	1・2年 通年	提出課題	30%
						授業態度・意欲	20%
						実習評価	40%
						実習記録	10%
授業のねらいと概要	実習を円滑に進めるための心構えや実践的知識を講義と映像、附属幼稚園見学などの体験を通して理解する。さらに幼稚園の役割や機能、保育内容等を総合的に学び、実践を通して、保育の課題を明確にする。1、2年次を通して行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の全体像を見通し、幼稚園の役割や機能について理解できるようになる。</li> <li>・具体的な実践を通して実習の意義や目的を理解し、自らの課題を見つけ、取り組もうとする。</li> <li>・事後指導を通して自己評価と共に実習の振り返りを行い、新たな課題や目標を具体的に捉えることができる。</li> </ul>						
準備学習 (予習・復習)	自らが幼児期の発達にかかわることを自覚し、目的を持って実習にあたることができるように自主的に学びを進めてほしい。 保育者に求められる基本的な実践力を養うために「実習ノート」を作成し、事前事後の学習に効果的に活用すること。						
回	授業計画			授業内容			
1	オリエンテーション			幼稚園・保育所・認定こども園、保育の用語について			
2	幼稚園とは			幼稚園の一日の流れから保育者と子どもを考える			
3	教育実習の位置づけ			実習の種類・期間・回数について			
4	実習園の選択について			幼稚園実習先の選択ポイントを知る			
5	幼稚園の中の子どもと保育者			子どもと保育者のイメージを語り合う			
6	実習の方法と理解			ビデオ視聴を通して			
7	幼稚園教育要領からⅠ			環境による指導と教育について			
8	幼稚園教育要領からⅡ			遊びによる指導と教育について			
9	幼稚園教育要領からⅢ			小学校との指導方法の比較から特徴を知る			
10	実習園オリエンテーション			連絡方法・態度・持ち物・内容を知る			
11	実習における基本的態度・マナーⅠ			実習生の生活習慣・健康維持の重要性			
12	実習における基本的態度・マナーⅡ			実習生の社会性について(コミュニケーション)			
13	附属幼稚園の見学Ⅰ			子どもの遊びの姿から実習を探る			
14	附属幼稚園の見学Ⅱ			見学後のディスカッション・省察			
15	実習に必要な準備事項			ビデオ視聴を通して			
16	幼稚園実習記録の記述についてⅠ			幼稚園の目的・機能について			
17	幼稚園実習記録の記述についてⅡ			保育の理解・子どもの理解・記録法・幼児の遊びについて			
18	総合的発達の特徴			生活を発達と関連づけて考える			
19	領域のとらえ方			遊びや生活の中で発達を読み取ることを考える			
20	活動のとらえ方			幼児の視座から活動を捉える			
21	環境構成と主体的遊び			幼児の視座から環境を捉える			
22	教育実習を終えてⅠ			実習自己評価を通して自身の実習を振り返る			
23	教育実習を終えてⅡ			グループディスカッションで視野を広げる			
24	教育実習の省察Ⅰ			実習注の事例を通して考え合う			
25	教育実習の省察Ⅱ			部分実習の実践から子どもの状態を考える			
26	保育者の専門性と実習			保育者としての意識の重要性と専門性を知る			
27	幼稚園教育要領から			実習と幼稚園教育要領内容を重ね合わせて考える			
28	幼児教育をめぐる変化と課題Ⅰ			幼児期を豊かにする園と保育者とは			
29	幼児教育をめぐる変化と課題Ⅱ			保護者のニーズ・子育て支援とは			
30	教育実習・学びのまとめ			子ども、保育を観る目の変容について			
テキスト	大豆生田啓友/高杉展/若月芳浩： 『最新保育講座12 幼稚園実習 保育所・施設実習』(ミネルヴァ書房)						
参考文献	『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『保育用語辞典』						

科目名	保育実習指導Ⅰ				試験	-		
	必修・選択	選択 (保資必修)	授業形態	(演習)			レポート	-
担当者	猿田 興子	単位数	2	学年・期間	1・2年 通年	評価の方法	提出課題	30%
							授業態度・意欲	20%
						実習評価	40%	
						実習記録	10%	
授業のねらいと概要		実習に向けて児童福祉施設の目的とその機能を理解し、実習を円滑に進めていくための実践的知識や心構えを会得する。さらに実習の内容を理解し、自らの課題を明確にし、実習の事後授業を通して保育者としての必要な資質・能力・技術の理解を深める。実践事例や体験による学習を中心に1、2年次を通して行う。						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。</li> <li>・観察や子どもとのかかわりを通して、望ましい保育者の姿について考え、判断する能力を身につける。</li> <li>・実習の事後授業を通してその総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にし取り組むことができる。</li> </ul>						
準備学習 (予習・復習)		保育実践の体感を通して実習への関心を深め、主体的に学ぶ姿を望む。事前・事後授業でディスカッションや事例を中心に自身の学びを実感し、保育者としての人間性の向上を期待する。保育者に求められる基本的な実践力を養うために「実習ノート」を作成し、事前事後の学習に効果的に活用すること。						
回	授業計画		授業内容					
1	オリエンテーション		2年間における保育実習の回数・期間・種類について					
2	各実習の内容と位置づけ		実習の目的とその概要					
3	実習園の選択について		実習先(児童福祉施設)の希望についての諸注意					
4	実習の方法と理解		ビデオ視聴を通して					
5	保育所保育指針についてⅠ		幼稚園教育要領との違いから					
6	保育所保育指針についてⅡ		年齢の違いによる発達の特徴を知る					
7	実習園オリエンテーションについて		連絡方法・態度・持ち物など					
8	実習における基本的態度・マナーⅠ		実習生の生活習慣・健康維持・マナー他					
9	実習における基本的態度・マナーⅡ		実習生の社会性について					
10	保育所における安全管理の重要性		守秘義務の重要性・養護的側面から探る					
11	保育実習記録の記述についてⅠ		保育所の目的・機能					
12	保育実習記録の記述についてⅡ		保育所生活の流れ・保育の見方・子どもの見方					
13	保育実習記録の記述についてⅢ		保育用語・記録法・記録時の諸注意					
14	未満児保育における養護について		保育実習における未満児への望ましい援助について					
15	0・1・2歳児の生活と遊び		その特徴と配慮点・ビデオ視聴から					
16	3・4・5歳児の生活と遊び		その特徴と配慮点・ビデオ視聴から					
17	保育実習を終えて		学生同士の話し合い・省察レポート記述で振り返りをする					
18	施設実習に向けて		学生同士のイメージの伝え合いから					
19	施設実習についてⅠ		施設の種類とその特徴					
20	施設実習についてⅡ		施設の生活と保育者の援助の内容					
21	施設実習についてⅢ		施設の理解と保育士の役割					
22	施設別実習事前オリエンテーションⅠ		学生・施設別担当教員によるディスカッション					
23	施設別実習事前オリエンテーションⅡ		学生・施設別担当教員によるディスカッション					
24	施設実習記録の記述について		入所・通所児の理解から					
25	施設実習に必要な諸準備について		保育所での実習との違いから					
26	施設実習を終えてⅠ		学生・施設別担当教員によるディスカッション(省察他)					
27	施設実習を終えてⅡ		学生・施設別担当教員によるディスカッション(事後指導として)					
28	子育て支援について		実習を通して子育て支援の重要性を探る					
29	保育実習全体の反省		保育者としての意識の変化とその専門性を知る					
30	2年間における保育実習のまとめ		乳児・幼児・入所児の理解と自身の変化について					
テキスト		大豆生田啓友/高杉展/若月芳浩： 『新保育講座12 幼稚園実習 保育所・施設実習』(ミネルヴァ書房)						
参考文献		『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『保育用語辞典』						

科目名	保育実習指導Ⅱ		必修・選択	選択 (保資必修)	授業形態	(演習)	評価の方法	試験	—
	担当者	猿田 興子	単位数	1	学年・期間	2 年 年 通 年		レポート	—
授業のねらいと概要	これまでの実習経験を生かし、部分・総合実習に向け指導計画を理解・作成・準備し、保育について総合的に学ぶ。さらに実習後の省察と課題を学生間で話し合う中で、保育の観察、記録及び自己評価などを踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの授業や実習体験を踏まえ、幼児理解を深め保育者の役割を総合的に理解できるようになる。</li> <li>保育の計画、実践、記録、省察及び自己評価などについて実際に取り組み、自ら考え判断する能力が身に身につける。</li> <li>保育者の専門性と自己の課題を明確にし、より向上しようと意欲を持つ。</li> </ul>								
準備学習 (予習・復習)	体験を通し、学生間の話し合いや発表に主体的に参加し、互いに学び合ってほしい。実習経験をもとに保育や子どもについて理解し、保育に対する課題や認識を明確にしてほしい。保育者に求められる基本的な実践力を養うために「実習ノート」を活用し、事前事後の学習に生かすこと。								
回	授業計画			授 業 内 容					
1	オリエンテーション			保育所における総合実習について・養護と教育の一体とは					
2	保育計画の理解			実践に生かす指導計画とは・子どもの視点からの計画を考える					
3	総合実習に向けてⅠ			附属幼稚園模擬授業を通して《活動と遊びの姿を捉える》					
4	総合実習に向けてⅡ			附属幼稚園模擬授業を通して《計画と実践を知る》					
5	活動の考え方Ⅰ			保育者の願いと子どもの思いを事例から考える					
6	活動の考え方Ⅱ			興味・関心・発達段階・季節・経験					
7	遊びの総合的発達について			遊び・生活を領域で捉え、総合的発達につなげていく					
8	領域のとらえ方			各領域を通して遊びや生活での発達の姿を捉える					
9	活動のとらえ方			園生活の実態からの総合実習に向けて活動を考える					
10	環境の構成と主体的遊びについて			子どもの視座から環境を捉え直す					
11	日の指導計画立案について			ビデオ視聴を通して担当保育士・実習生の関わりを考える					
12	日の指導計画案作成			6月の子どもの姿の触れる					
13	保育所実習の振り返り			総合実習での省察を中心に振り返る《ディスカッション》					
14	保育所保育指針から			保育所保育指針を読み解く・保育の記録と保育所児童保育要録					
15	二年間の学びにおける自身の変容			子どもを観る視点の変化について					
テキスト	『最新保育講座 12 幼稚園実習 保育所・施設実習』(ミネルヴァ書房)								
参考文献	『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『保育用語辞典』								

